



明 柔

2003. 道場移転特集

明治大学柔道部明柔会会報

世界四連霸

偉業
阿武教子



[78kg級 警視庁 平成11年卒]
〔大阪世界選手権2003〕

写真 近代柔道提供

clo New Concept Mansion Series

わたしたち明和地所は、提案します。



■クリオ レミントンハウス同佑ヶ谷・エントランス(好評分譲中／即入居可)

人が豊かに暮らし、交流する空間。

人がいきいきと語りあえる空間。

そんな生活空間の創造を

私たちは次世代へのコンセプトと考えます。

「クリオ」マンションシリーズを核として

トータルな総合生活文化産業をめざし、

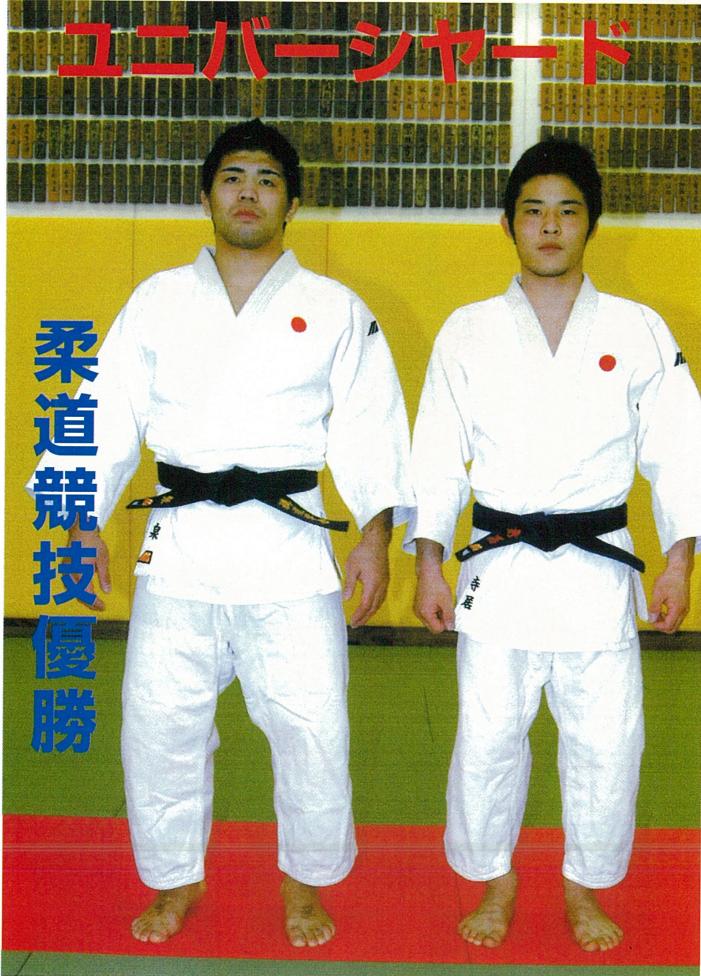
いま新しい一步を踏み出しました。

MEIWA 明和地所 ☎0120-107-017 <http://meiwajisyo.jp>

本社 / 〒150-8555 東京都渋谷区神泉町9-6 明和地所渋谷神泉ビル ●建設大臣免許(1)第4118号 ●(社)不動産協会会員 ●(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟店
札幌支店 / ☎060-0001 札幌市中央区北1条西2-1 札幌時計台ビル4階
関連会社 / 明和総合商事株式会社 明和管理株式会社 明和ファイナンス株式会社

ユニバーシヤード

柔道競技優勝



泉 浩（経営3）90kg級

寺居高志（政経3）66kg級

アテネに向けて 棟田 金



〔大阪世界選手権2003〕
〔100kg超級 警視庁 平成15年卒〕

優勝者



全日本学生 体重別 優勝 渡辺一貴（政経3）73kg級



講道館杯優勝 泉 浩（経営3）90kg級



全日本ジュニア 60kg級優勝 田中 誠（政経1）



全日本ジュニア 90kg級優勝 日當浩二（商1）

明柔（明治大学柔道部明柔会会報）目次

巻頭言	部長	百瀬 恵夫	6
新道場完成			
文集「悔いなき我が青春」	(二八名)	14	
世界柔道選手権大会を終えて	上村 春樹	50	
平成十五年大会成績			
慶祝	栗原 英道	69	54
ゴルフ	浜本 義典	62	60
事務局便り	浜本 義典	64	65
奨学金	杉原 構		
追悼文			
姿節雄先生を偲ぶ			
編集後記			

道場移転と感謝の言葉

明治大学柔道部 部長 百瀬惠夫

小川町校舎に道場が移転したのは、昭和三一年であった。それまでは、駿河台本館の地下にあり、剣道場やブームと同居するといった今日ではとうてい想像のつかない内容のものであった。しかし、このような劣悪な条件のもとで、著名な柔道人を多く輩出した。小川町道場も狭い上に設備も不十分であつたが、そのハンディをものともせず、日本柔道の歴史を明大柔道部の力によって築いてきたのである。

うすぎたない階段を登りつめて道場に取り材にやってくるすべてのマスコミ人は、異口同音によくぞこの道場から名選手を輩出したものだと驚く。

全日本学生柔道選手権優勝最多校、オリンピック・世界柔道選手権メダリスト最多校といった輝かしい実績は、名実共に世界一の明治大学柔道部から生み出されたものである。

さて、この度わが道場は、小川町校舎の老朽化にともない取りこわされることになった。そこで、道場の移転問題が表面化する運びとなり、結果旧法学部校舎、十号館に移転することが決まった。

大学当局の山田雄一学長（体育会会長）、長吉泉理事長をはじめ担当部署



の関係各位のご理解とご支援によって、新道場が完成をみた。また、体育課や施設課の方々にも多大のご協力をいただいて、当方の要望を採用していただき立派な道場の完成をみることができた。これらの諸先生に対して、柔道部を代表して深甚なる感謝を申し上げる次第である。

これを機に、更なる精進を重ね、明治大学柔道部の歴史と伝統に一層の磨きをかけるべく、決意を新たにするものである。
鑑みると、柔道部の運営は、すべてOBで組織する明柔会（会長渡辺政雄氏）の物心両面にわたるご支援があつたからこそである。柔道部は、独自の奨学金制度を設け奨学金委員長杉原構氏、同副委員長細川隆夫氏を中心となつて、多くのOB篤志家の浄財のご支援をいたしている。この制度がなければ、強い素質のある選手の獲得と育成は不可能である。今日までの明大柔道部の業績は、これらの方々の裏方に徹した力強いご支援とご協力があつたればこそであり、ここに改めて衷心より御礼を申し上げる次第である。

ここに、柔道場の移転に当たり、これまでに寄せられた関係者各位に対して、厚く厚く御札を申し上げると共に、今後相変わらずのご厚情をお寄せ下さいます様御願い申し上げ、感謝の言葉とさせて頂きます。

惜別！小川町道場



新道場 10号館（最上階道場）

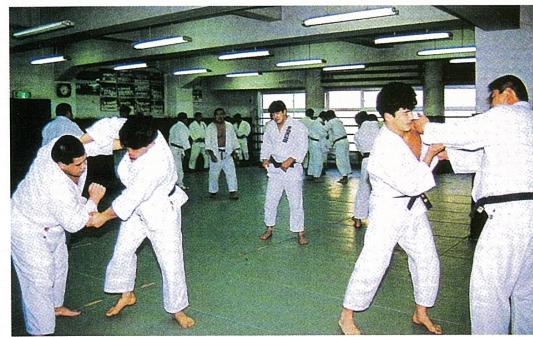


道場 正面（西側）

希望！新道場



小川町校舎（道場五階）



小川町道場練習状景（平成四年寒稽古）

喜びのお披露目



トレーニングコーナー



道場談話室



お風呂



修祓式 出席者



道場東側

修祓式

新道場完成

小川町道場四七年の歴史を閉じる

念願の新道場がついに完成した。四七年ぶりの道場移転である。

十一月九日、駿河台の氏神大田姫神社神官による新道場の修祓式には学長、理事長も出席された。

また同日に開かれた記念パーティでは過日行われた世界柔道選手権大会の金メダリスト阿武教子、棟田康幸の表彰も行われ歴史的行事に華を添えた。

思えば昭和三一年秋、小川町校舎の新設にともない本館地下にあった道場が新校舎の五階に移された。薄暗い六十畳足らずの地下道場から移ってきた当時の部員にとって小川町道場は明るくて風通しが良く、また自前の風呂まである新天地であった。

教室を改造した道場のため畳の配置が変型で、後に他校から明治のかぎ道場といわれる様になる新道場だったが、當時はまったく気にならなかったものである。

爾来、約半世紀小川町道場は着実に、明大柔道伝統をくんでくれた。実績は現在最多優勝を誇る学生団体優勝に代表されるが、特筆できる事はこの道場で汗を流した学生、OBが獲得したオリンピック、世界選手権、全日本選手権、全

日本学生選手権（個人）の金メダルの数である。その数は他校道場の追随を許していない。

すでに国際化が成った柔道であるが、個々の道場として見

た時、その実績から見て明大・小川町道場こそ世界一の道場といえる。

彼らチャンピオンたちとこの道場で共に汗と涙を流したOBの数は有に五百人を越す。この人数は創部明治三八年以来、道場に掲げられている部員の名札のはば半数を占める。

道場四七年の歴史を振り返って見れば良い時代も苦難の時

代もあつたのだが、我々にとって小川町道場は「人生の牧場」であったことは間違いない。

しかし光陰矢の如しで半世紀に近い時の流れは争わらず、道場設備の老朽化は確実に進行し、世界一の道場の体裁とは程遠いものとなつて数年を経た。明柔会は公式に、非公式に

事ある毎に道場の新設を大学に願い出てきたが、このたび漸く大学の了解が得られ、大學十号館五階全フロアーを使つた素晴らしい新道場が完成した。ここに至るまでの部長百瀬先生をはじめ大学関係者の御尽力に心から感謝を申し上げる次第である。

道場の移転に先立つ十月四日、小川町道場との別れの会を催したところ全国から百名にのぼるOBが馳せ参じてくれた。次の文集は当日出席した各位の思いである。

文集掲載順序は原稿到着順にさせていただきました。



山田雄一 学長



長吉 泉 理事長



秀島大介 柔道部 監督

悔いなき我が青春

❖❖❖❖ ありがとう小川町道場 ❖❖❖❖

小川町道場の思い出

昭和二六年度 松本順吉

憧れの明治大学小川町道場との出会いは昭和三年の二月下旬、明治大学入試の前に行われた柔道のテストの日でした。

当日はその後同期生となつた三人との試合で二人を投げて畠のクッションを確認し、一人には投げ飛ばされて背中で畠の感触を味わいました。

板の間に畠を敷いただけの高校の道場と違い、スプリングが効いている事と変形した道場のたたずまいに驚いたもので

す。運良く入学試験に合格し晴れて柔道部の部員となれた日の

うれしさは格別のものでしたが練習初日の道場のムードは神永昭夫キャプテンを筆頭に勇ましく居並ぶ四年生の先輩部員に怖さえ感じようでした。

練習が始まつてからはもう散々であり、高校柔道と大学柔道との違いをさまざまと見せ付けられました。回し稽古で疲れきった先輩を投げようものなら五倍くらいのお返しで投げ

飛ばされたことを思い出します。

そして、姿先生にご指導を受けたことも忘れない思い出です。「この力柔道部が！」と突き倒され寝技で身動きできないように決められるなど何度か稽古をつけていただきました。

残念なことに怪我も経験しました。練習に慣れてきた頃、右ひざのじん帯を痛め、長期間練習が出来なかつたことです。この間、腰を痛めて休んでいた神永正夫君と共に練習の時間中諸先輩の柔道着を風呂場で洗濯したものです。ひざを痛めていたこともあります。二年生からはマネージャーのお手伝いを始めたとうマネージャーとなり練習をしなくなりました。

三年の時に道場畠のかなりの枚数が傷んでいる事がわかり張り替えてもらいました。これがきっかけで畠をはじめ道場のメンテナンスに注意するようになり卒業しました。今般、小川町道場の閉鎖に直面し、振り返してみると畠の修理が一番の思い出のようであり、元マネージャーらしくいいのではないかと自己貢献しています。そして卒業以来四十年余、この間歴代マネージャーの誰が畠の修理を経験したのかと気になる所です。



日本一の柔道部に憧れて

昭和五年度 江川真司

先日、小川町道場のお別れ会に出席するため上京したのですが、五階道場への階段を上る時には感慨深いものがありました。丁度三十年前の昭和四八年四月、入部を申し込むため初めてこの階段を上つた時の事を思い出し、憧れの場所へ向かつた時の緊張と感動が甦ってきました。

高校受験の時、三重県の柔道名門校進学に失敗し、大学では日本一の柔道部に入りたいというのが私の夢でした。そして、受験の時には明治大学ばかりいろいろな学部を三つ受け、抑さえで日本大学を受けています。何故明治を選んだかといいますと、当時持つっていた柔道の本（著者が曾根先生）の末尾に全日本学生の優勝校が載つておらず、昭和四六年までに明治が一回、二位が天理の五回、日大が二回、中央と拓大がそれ一回ずつというものです。全日本学生に敗れた年でも、実業団を含めた団体選抜でリベンジし二回も日本一に輝いているという凄い大学でした。昭和四七年の全日本学生でも圧倒的な強さで優勝し、正しく日本一の柔道部だったのです。

昭和四八年四月、農学部への入学は果たしたもの、どのように入部したらいいのか分からず、担任の笠原茂先生（レッスン部監督でベルリンオリンピックの銀メダリスト）に

相談しました。笠原先生は「柔道部は少数精銳のクラブで、君じゃ無理だろ。レスリング部をやつたらどうだ」と勧められました。一日だけレスリング部に行きましたが、どうしても夢が捨てきれずもう一度頼んだところ、駿台にいた滝沢先生（相撲部監督）に小川町道場へ案内してもらえることになりました。

そして、滝沢先生と共に小川町校舎の階段を上つたのです。五階を上りきったところの下駄箱の前に立つた時の感動は今でも忘れる事はありません。そして、私のような一般学生でも柔道部は暖かく迎え入れて頂き、日本一の柔道部に入部することができました。

道場は思つていたより狭く、初めは「こんな小さな道場で、日本一になれるのか」と不思議に思いましたが、しばらくしてその意味が分かりました。それぞれが稽古場を争つて取つている。弱い私が乱取りしていると「江川、下がれ」とよく言わされました。また、「短い練習時間なのに明治は強い」という話もよく聞きました。元々センスのある選手の集団でした

が、その稽古は伝統的に支えられた気迫の籠もつたものであつたように思います。

私達が卒業した後も、後輩達が優勝回数を伸ばすなど今も日本一の柔道部でいるのですが新道場に変わつても、新たな伝統を作つて欲しいと思います。

旧道場の思い出

昭和三七年度 田村興靖

いくと思いますが、いずれにしても小川町道場で刻んだ明大柔道部の歴史を全員で引き継いでいつてもらいたいと思う一人です。

私は昭和三四年二月に明治大学の柔道テスト試合のため、初めて小川町道場に入らせてもらった。その当時には四年生の強豪メンバー、神永・甲斐・徳山・比嘉・富賀見等、多数の先輩方が在学され、明大黄金期の時代であった。

小川町道場は曲りくねって、四角い道場とは異つていて、私は不思議な感じで道場に入ったことを思い出す。緊張したが無事テストを通過し、晴れて明治大学柔道部の一員にならせてもらった訳だが、初めは自分も早く先輩に追いつき強くなりたいと、なにも考えず和泉校舎での授業が終了後、お茶の水の小川町道場に通っていた。しかし段々日々が経つにつれ、お茶の水が遠く、しかも小川町校舎の階段が高く、辛く感じて来た来たことが、ある日のこと、私が階段を登りながら休み、又登り、又休みして、今日は練習が辛いので家に帰つてしまおうかと考えていた。その時、後から登つて来た先輩が「今日も一日頑張るうえ」と一声かけてもらつた。

この一声が掛け音になった自分の気持を勇氣付けて道場に登つたことを思い出します。あの時家に戻つてしまつていたら、あらゆる事に負けてしまい、今の自分がなかつたのではないかと、この年齢になつて感じている次第です。



地下道場を経験している年代

心電図

昭和三九年度 植草 勝

昭和三七年二月のある日、稽古を見学していた私に、神永先輩から突然「オーライまさる。心電図を撮りに行こう。」と声が掛かった。

といふのも、前年の八月、東京オリンピックに向けた第一次の柔道選手候補強化合宿に参加していた私は、合宿が始まつてから一週間くらいたつたころ行われた健康診断で、心臓に所見があるとして精密検査を受けるように指示された。早速、姿先生の友人で東京医科歯科大学の佐々教授を訪ねると、「心臓結滯」と診断され、命にかかるおそそれもあるので「稽古してはいかん」ということになつた。

それからというものの、見取り稽古を余儀なくされた私には、思つき稽古に励む先輩や仲間の姿が、これまで以上に大き見え、気ばかり焦り、「柔道部も大学も辞めなければいけないんだろうか」といった不安感や挫折感にさいなまれ、正に針のむしろに座る感覚の毎日であつた。

そんな矢先のことだった。

先輩について行くと、お茶の水駅近くの地下レストランに入った。先輩は、生ビールの大ジョッキ二つとビン入りの黒ビールを注文された。テーブルにビールが届くと、先輩はやおら生ビールのジョッキに黒ビールを注ぎながら、「これは

栄養があるぞ。飲め！」と言つて勧めてくれた。「一杯目を飲み干して二杯目を飲む」と注文した合間に、先輩は「まさる。姿先生や佐々先生とも相談したんだが、心電図は、やっぱりおかしいけど、稽古してもしなくとも特に変化がない。体と相談しながら稽古してみるか。」と切り出された。私は、躊躇なく「お願ひします。」と答えた。

「調子が悪いときは休めばいい。明日からやるか。」「はない。」といつたやりとりがあったが、その後ビールを何杯ご馳走になつたかは、嬉しさも手伝つて、とんと覚えていない。ちなみに私はまだ未成年だった。

一年坊主の私にまで細やかな心配りをしてくれる先生や先輩方の有り難さは、もちろん身にしみたが、そのときは、これで稽古ができるということが、何よりも嬉しかった。

あれから四十年余りが経つた。その後も心電図とは縁が切れないが、人並みに幸せな日々を送つてゐる。

あのときの、道場での神永先輩の「心電図を撮りに行こう」との言が私の人生を切り開いたターニングポイントであつたと、今しみじみ思つてゐる。その後も心電図とは縁が切れないが、人並みに幸せな日々を送つてゐる。

小川町の道場が消えると聞いたとき、心電図で思い悩んでいた、あのころのことが、姿先生や神永先輩の暖かな心遣いとともに鮮やかに蘇り、懐かしさと感謝の念で一杯である。合掌

かけ、はばたいてもらいたいと祈る。

昭和四三年度 南日和郎

郷里富山に帰つてから、道場を訪ねる機会が何回かあった。その都度、必ず見るものがある。壁面に、卒業年度順に掲げられた氏名札である。

高校柔道界では無名校出身の上、戦歴など皆無の私が体育会柔道部の門をたたいてからの四年間、諸先生、諸先輩、同期の皆に温かく支えられ、挫折することなく過ごした日々が、何とも言えず懐しく貴いものに思える。

自分の名前を、じっと見ていると、道場での出来事が走馬灯のごとく、又、諸先輩、同期、後輩の名前をみていると、それぞれの顔が思い出が、頭に浮かぶ。

きっと私にとって苦しい練習であつたろうし、厳しい道場での慣習であつたはずであるが、今は何故か、楽しいことばかりが思い出されるから不思議である。

日本を、世界を制した人々、その道を極めた人々、技・気力・生き方・人間としての大きさを肌で感じることが出来たで

小川町道場、我々にとって、古びてはいたが「我が青春の舞台」であり、名札は「我が青春の明かし」である。

今度、新しくなる道場は機能的にすばらしいものとなるであろうが、小川町道場、いやその昔の地下道場から引き継がれている明治大学体育会柔道部のスピリットを一段と磨きを

楽しい思い出をありがとう

昭和四四年度 代田正俊

新道場の完成おめでとうございます。まずは心からのお慶びを申し上げます。十月四日に行わされた小川町道場のお別れ会、九州あるいは北陸からと、いつも以上に沢山のOBの方々がお見えになっていた。懐かしさと、また胸に去来する何かに動かされて、足を運ばれたのではないかと思います。

この日、小川町道場お別れ会の日、五階までの階段を上りながら、ふと思いついた事があります。今日は村上、小林、小谷君等と道場で会う約束になつてゐるが、他にどんな人達と会えるだろうかと、足も弾みがちになつたが、一年生の頃（昭和四一年）こんな気持ちでこの階段を上つたことが有つただろか、これから始まる練習の事を考え、なんと陰鬱な気持ちで上つていたことか。笑顔で昼食を共にしていた同期の連中も、小川町校舎に入り三階、四階と道場が近くに連れ、皆一様に無口になつて、いたような気がする。しかし、この階段を途中で下りる事なく、四年間上り下り続けた事が、今日こうして楽しい気持ちで階段を上り、そして素晴らしい仲間にも見えるのだ。

道場での思いでを一つ…やはり一年生の時、当時風呂のボイラの調子が悪く、沸ぐのに三時間以上かかった為、寒稽古の時には風呂当番の一年生が順番で道場に泊まつたもので

した。夜中三時にボイラー点火、寒いので、持ちこんだお酒を飲んで、道衣をかぶつて寝るのが同期の慣わしであったが、その日は特に寒く、酒に弱い私は、普段コップ半分程度のウイスキーで充分であるはずが、その時限度をはるかに超えていた。道衣を何枚重ねても寝付かれず、寝床をボイラー室の脇、脱衣所に移した。ここは少々の湿気はあるものの、ボイラー室の熱気も伝わり、気持ちも少しずつ良くなつてきました。「お前何でこんな所で寝てるんだ、早くビンをかくせ」の声に飛び起き、あわてて持つたハイニッカのビンが半分近くになつていて、まだ顔も赤く、多分酒臭いであろうと悩んでいた時、「今日が今まで一番寒いな」と言う先輩の声が耳に入つた。これだと思い、風呂当番で風邪を引いたと芝居をしたのです。

「お前、顔が赤いけど大分熱が有るんじゃないか」と心配そうに声を掛け下さった、大森先輩の声を今も覚えています。最近お会いする機会がありませんが、今更ながら穴に入りました。



三十年代後半

私の小川町柔道場

昭和五八年度

米田守

過ぎ去った時というものは、私の頭で思つてゐる感覺以上にスピードがあるものだと改めて考えさせられてゐるところです。明治大学柔道部小川町道場を巣立ち早や二五年、入学から数えると約三十年です。何と道場を表現しようかと一瞬考えますが、直に思いつくのは「有難うございました。」と「四年間私の受身を受けてくれた道場に感謝」です。この小川町道場で姿先生の「心技体」柔道の妙に触れ、曾根先生、神永先生の大きな心に触れその上に世界の頂点を目指す先輩に充分過ぎるほど投げて頂いたことを小生の一生の宝物と思つています。

我々同期生は、五名と非常に少なく善つけ、悪しきにつけ團結心があり、今現在も各人都合がつけば連絡をつけ主将と主務の命令の下で「集合」という形で親交を深めています。この形は、小川町道場の思い出では無く「教育」と私自身捉えています。思えば渠立つてから同輩各氏も色々な問題や波風を経験してきたと思いますが、どう云う事を感じさせず、小生の分岐点の時を、ふつと考へると相談しているのは、家族と同期生の様な気がします。これが道場で培つた「絆」と実感します。

小川町道場での思い出

「疾風に勁草を知る」

昭和五十年度

小野瀬雅幸

卒業したのが一九七六年だから、社会に出て二七年の歳月が過ぎた。気持ちはいつまでも若いが、年齢は今年で五十歳である。企業をとりまく環境はとても厳しいが、これも良い試練と前向きにとらえている。

私が明大柔道部への入部を決心し、小川町校舎入り口から

五階の柔道場までの階段を一步一歩登つたのがまるで昨日の出来事の様に思い出される。その日が明大柔道部道場を見るのが始めて、どんな稽古をしているのかさえ知らなかつた。当時のマネジャーの鳥海八郎先輩が出てきて、神水監督に「実は新入生が入部したいと来たのですが」とちよつと困惑気味に伝え、暫く戻ってきた。「まあ、そこに座つて見学してみて、良かったら入部しなさい」と言われたのを記憶している。私は強くなりたいという以外に、強い人達はどうして強いのかという大きな疑問をもつて、その解を自分なりに見つけようとしたのも入部の大きな要因であった。強い世界を見てみたい、ということである。

体でもかく、確かに強い。それ以上にすごく稽古をする。

私の疑問は暫くして解けた。「これだけの稽古をし、更に自分でもトレーニングをする。勝つための意志もあれば、努力もしている。だれだってこれだけやれば強くなるのは当然だ!」これまで自己管理など明確な意思を持たずにただ日々を送つていた自分にとって、カルチャーショックであった。

このあたりから心の中に、日々の過ごし方とその工夫が大切という意識が芽生えた。今思うとこの頃がその後の人生の出发点であった。確かに稽古はつらいし、頭も丸刈りで、まとまつた休みもなかつた。でも全員で目指した全日日本学生柔道大会など大きな目標にむか、全力で戦う選手を見て学んだことはとても多い。たくさんの強烈なキヤラクターの方々とお会いすることが出来たし、勝負の厳しさ、最後まで諦めず

学舎・明大道場

昭和四六年度

鈴木 強

戦い抜く体力、氣力、意地、とともに他では学ぶことの出来ないことを経験出来たことは財産である。今の自分が存在しているのもこの財産のおかげと思つている。鉄は熱いうちに打て!は眞実である。たとえ物理的に校舎がなくなつても、私の記憶の中にある。当時の人たちの姿と共に、何時までも存在し続ける。小川町校舎の道場は私の原点であり、あそこから

が過ぎた。気持ちはいつまでも若いが、年齢は今年で五十歳である。企業をとりまく環境はとても厳しいが、これも良い試練と前向きにとらえている。

書は、小生達が上級生の時代に寄贈掲額されたものですが当時は、色鮮やかな「朱」がありました。然しながら道場と共に其れなりの歴史を過ごせば、こんなにも変わるものかと再確認しました。

後輩諸君この古き良き道場の歴史の香りを次代の新道場に生かし、また「闘魂」を朱色に染め直してください。
有難うございました、私の標……明治大学柔道部小川町道場

ん癒されました。……厳しい練習が続く中、性格がおとなしかった（？）私は、自立の部員ではありませんでしたが、道場で行なわれたある試合がきっかけで、唯一の得意技「大車」が神永先生の目に止まり、部員全員の前で技の解説をするようになりました。うれしさの余り細かい所まで説明してしまった。……ある先輩からお叱りを受けました。「技が掛からなくなっているぞ」と……有難い言葉でしたが崩し方をいくつか身につけていましたので、なんとか技の解説をおわる事が出来ました。

これを機に、神永先生から稽古をつけてもらえる様になりました。……「鈴木！準備運動をやるぞ！」……と言わながらも、うれしくてたまりませんでした……。

四年生の時、マネージャーをさせて頂き、全日本学生柔道優勝大会の際は、選手と共に優勝記念写真に收まりました。その時の写真が現在明大道場に飾ってあり、大変嬉しく思っています。

明大道場では沢山の事を学びました。そして、その道場で汗を流す事が出来た事、多くの先生、先輩、後輩、同期生と出会えた事を今でも誇りに思っています。



四十年代前後

小川町道場

昭和三五年度 山口友孝

とんでもなく変形な道場、鏡の前では柔道着姿が最高の師範、姿先生が稽古を付け、柔道着を天井に吊した道場の奥、道場の全体が見渡せる角の好位置には、葉山先生が物静かに立ち、そのまま近くに、窓を背に曾根先輩が、また壁を背に立ち並ぶ、びっくりするほど大きくて強い、しかし本当に優しかった諸先輩に稽古をお願いして、神棚の前の豊にたたきつけられた、一年生当時の小川町道場の練習の情景を今でも鮮明に思い出すことが出来ます。

私、未だに不思議に思うことがあります。静岡県立沼津商業高等学校出身の、無名選手でしかも一年生の私を、先輩にあれだけ多くの強豪選手がいたのに、全日本学生柔道優勝大会の事実上の決勝戦と言わわれた、二回戦対天理戦から起用して頂いたことです。

一年生で全日本学生柔道優勝大会優勝のメンバーに、しかも私の一番尊敬する柔道家、神永先輩と一緒に名前を連ねる事が出来たことはその後選手、指導者と続いた私の長い柔道人生の中で最高の誇りであり、自慢でもあります。

卒業後も三年間、四連覇の偉業を残した後輩の快（怪）人達にお世話になりました。

メキシコに渡り二三年間、誰よりも強いことがメキシコで

道場の名札

昭和三七年度 栗原英道

の柔道指導者の第一条件でありましたが、誰にも負けず、メキシコのナショナル・コートとしてオリンピック、世界選手権大会等、世界を舞台に素晴らしい体験楽しい指導生活が出来ましたことも、小川町道場で、明る柔道部で鍛えて頂いたからこそ出来た事と深く感謝致して居ります。

新道場でも小川町道場以上の輝かしい優勝記録を築き上げて下さい。

昭和三四年春、入学して最初の感動は道場に掛るOBの名札を見た瞬間だった。そこにはメディアまだ未発達だった我が高校時代、師匠の故隱居大人（昭和二五年度）やその友垣から見聞した煌く栄光の戦歴を持つ強者の名前がズラリとあった。不安と心細さに耐えながら、これから日々を如何に処すべきか、確たる心構えを求めて七転八倒、いつもこの名札を眺め励まされて、試行錯誤の四年間を過ごした。畢竟思ひ至ったのは「栄光を手中に収めた先輩諸兄には及びもなのが、自身は只の凡人であることをしつかり自覚しつつ、志を高く持ち、億もす撓まずの一歩一歩の努力あるのみ」と意惰な己れの性格とは二律背反するが絶望にも似た結論だった。

当時、近況報告した中学時代の恩師からの返信には次の如く

あつた。

入口の履物入れから、はみ出している坂口・山本忠、両忠
怠らず行かば千里の外も見ん

牛の歩みのよし運くとも

社会人となつた小生には、数人の良き知己に出会えた幸運も

あって、卒業時に抱いた決意を、細やかながら継続実行しつつ、今日に至ることが出来た。『小川町道場さようならセレモニー』が行なわれた当日、改めて名札を見た。最初の感動か

ら以後半世紀の間に、旧き先輩達に勝るとも劣らぬ偉業を記録した後輩の名札は、その数二倍にも達している。創部以来百年的歴史の証は、小林敏邦先輩の甚力で見事にリニューアルされて整然と居並び、新道場という次の舞台で現役

諸君を叱咤激励するため、満を持して出番を待っているように思えた。時々出席する明柔会の行事では、その言動に品格

識見を欠くOBに遭遇することも時偶あるが、そんな事と相殺しても、「ありがとう」の思いが心に拡がる名札のある風景を、いつまでもいつまでも大切にしたいものだ。

東京オリンピック前後の小川町道場

昭和四十年度 坂本羯正

昭和三七年三月憧れの明大に合格、念願の柔道部へ入部。早速道場へ中野雅博先輩（八代高・三九年度工学部卒）の引率で参上した。

関節技で極められる等々、こてんぱんにされ懶惰に設置してある木柱に「黒帯」で縛られたという苦い思い出も今となっては懐しい。卒業後「熊本県警察」へ奉職し、専門家へ進んだ私の職場での活動のすべてが、小川町道場で学んだ「明柔スピリツ」が原点であると、言つても過言ではない。

この道場の最後の卒業生達の野寺（平十三年）野中（平十四年）の両君が県警に入ってきた。彼等がこの精神を大いに發揮して、我が国の治安回復に貢献してくれることと、十号館五階に完成した「新道場」から、一年後に迫った創部百年を迎える新たな時代の「質実剛健」の伝統を繼承する「明柔マン」多数の輩出を期待している昨今である。

「白雲なびく駿河台 眉秀たる若人が……」

小川町道場での思い出

昭和三四年度 谷藤義明

私が昭和三二年に明治大学の柔道部へ入部した時は地下に

道場があり、道場の隣には相撲部がありました。風呂場と共に使いつた相撲部の稽古が柔道部より早く終るため砂がいつも床に残つたものでした。相撲部員達は、『まわし』をつけているのでほとんどがインキン持ちでした。

私が昭和三二年に明治大学の柔道部へ入部した時は地下に

道場があり、道場の隣には相撲部がありました。風呂場と共に使いつた相撲部の稽古が柔道部より早く終るため砂がいつも床に残つたものでした。相撲部員達は、『まわし』をつけているのでほとんどがインキン持ちでした。

小川町道場よりがとう

昭和三七年度 村木晃

私が昭和三二年に明治大学の柔道部へ入部した時は地下に

道場があり、道場の隣には相撲部がありました。風呂場と共に使いつた相撲部の稽古が柔道部より早く終るため砂がいつも床に残つたものでした。相撲部員達は、『まわし』をつけているのでほとんどがインキン持ちでした。

私が昭和三二年に明治大学の柔道部へ入部した時は地下に

道場があり、道場の隣には相撲部がありました。風呂場と共に使いつた相撲部の稽古が柔道部より早く終るため砂がいつも床に残つたものでした。相撲部員達は、『まわし』をつけているのでほとんどがインキン持ちでした。

入口の履物入れから、はみ出している坂口・山本忠、両忠ひきかえ道場の手狭さにまた、おどろいた。

一方、二年後に控えている「初の柔道式種目導入の第十八回五輪東京大会」に備え、ベン・キャノベル氏（現米国議員）旧ソ連サンボ選手団（シユリツク団長以下四名）

そして、オリエンピック開会式で、オランダ選手団旗手も務めた。A・ヘーシンク一行（当時白帯のルスカ氏も同行）等々、

そうそそうたるメンバーが連日猛稽古に参加し、熱氣溢れる国際性豊かな明大道場であった。

それらを、まの当りにしながら己の体力（体重六八キロ）・

技量ではなく、不安感がつるる日々。

そんな状況下、前期キヤンベル氏と乱取中、思わずアクションで、右肘脱臼とあいつた。その後、私も四量半組の一員となり外国人にも負けない為にもと闘勝治先輩（昭三九年度主将）の指導のものW・トレーニングに励んだものだつた。

この練習後の「肉体美」を隣の「主婦の友社」ビル四階の女性職員へ見せるのが、楽しみの一つでもあった。

さうして思い出に残るのが、『姿節雄』先生に初めて稽古をつけていただいた時のことである。

純朴な私は先輩達の指示どうり、がむしゃらに攻め続けた。それが先生の講道館柔道の指導理念に反したらしい。ものの一分間も経たない内に固投で抑えられ、絞められ、

又小川道場には姿先生の恩師三船先生（十段）が来られ、八十歳を過ぎた先生ですが、御挨拶をされた後「私の愛する女房が待つて居るので今日はこれで帰ります」と言うお言葉を残してお帰りになるあのお姿は四七年以上経つた今でも脳裏に深く刻まれて、忘れる事が出来ません。

八島先生・小田先生・葉山先生・姿先生・久米先生・齊藤先生方々がお元気な姿で私達を御指導下された事も目に写り、今でも思い返されます。

輝かしい長い歴史をもつ明治大学柔道部の伝統と情熱のこもつた小川道場でした。

今後も明治大学柔道部の誇り高き精神を守り、お亡くなりになられて諸先生・諸先輩方のためにも我々OBがしっかりと輪を組み頑張って行かなければならぬと思います。

畠の上に立った。小川町校舎の階段を昇り始めた頃から当時の光景が目に浮かんできた。道場に入り隅々迄歩いた時、懐かしさとこの道場が無くなってしまう寂しさについてホロリとしてしまった。

入学当初、ある先輩から「村木、入学祝いは済んだか」と言われ意味がよく分からぬまま「まだです」と答えると道場の片隅に連れて行かれ、あつと言葉間に落とされた。先輩の技の素早さと同時に、これから稽古の厳しさを察し、身が引き締まる思いがした。そしてこの伝統ある名門、明大柔道部に入部出来た幸せを感じ、自分自身の為に四年間柔道部を絶対に辞める事無く卒業しよう重心に誓った。

大学時代の四年間、我が柔道部は全ての大会に於いて常に「優勝」を目指し厳しい稽古に明け暮れた。当時は葉山監督、姿師範を頂点に、曾根・神水両先輩を中心と錚錚たる先輩方の御指導を仰ぎ、日本一いや世界一の柔道部であった。私の在部中昭和三六年、三七年の時に全日本学生優勝大会で連続優勝をし、全日本学生選手権大会では三四四年、三五年で重松先輩が連続優勝、三七年には同期の朝田君が優勝を成し遂げている。その後も後輩諸君が同様の素晴らしい活躍を続けているのは嬉しい限りである。

現在私は六三歳、今迄の人生を振り返ってみると山あり谷ありで私なりにいろいろな経験をした。苦しい時には常に小川町道場を思い出す、「俺は名門明大柔道部の卒業生だ、負けてたまるか」と自分に言い聞かせビンチを切り抜けて来た。

小川町道場の想い出

昭和三一年度 丸山彰治

昭和三一年九月、夏休みも終り、新学期と同時に本館地下の薄暗い道場から、環境が一変した明るく広い小川町校舎に道場が移転しました。

優秀な先輩方が練成された道場を去る事には、一抹の淋しさが残りました。

新しいタタミを五階まで運び上げる作業は、少々苦労しましたが皆期待に胸をふくらませたものでした。当時四年生は主将浅野、マネージャー、五島以下数名でした。

七月の全日本学生優勝大会では、二回戦で健闘空しく、中央大学に敗れ、葉山・姿岡先生及び曾根・渡辺政両先輩から、我々四年生がきびしく叱責され大いに責任を感じた事でした。当時、三年生は徳永、二年生神永、一年生には篠原をはじめ各学年には俊英が揃い、我々の卒業後はご存知のように連覇を果してくれました。

四七年ぶりに移る新道場は大学本館に隣接しているとの事、大学の各運動部において、駿河台に練習場をもつということは大きな意義を持ちます。尽力いただいた百瀬部長はじめ関係者に感謝の意を表したいと思います。

あれから半世紀に近い歳月が流れ、同期の仲間も三名が他

界しております。過ぎ去った日々に想いをはせながらまた柔道部の更なる飛躍を祈念している昨今です。



五十年代前半



四十年代半ば

今私は改めて諸先生、諸先輩、同期の仲間そして後輩の諸君に感謝をし、明大柔道部員であった事を誇りに思う。
最後に小川町道場ありがとうございました。

昭和五一年度 濱本敏典

昭和四八年四月、小川町道場での私の柔道修業が始まった。当時の明大柔道部は全日本学生優勝大会三連覇中で、学生柔道界の王者として君臨していた。社会人の先輩諸氏も數多く

小川町道場という青春時代の思い出の場所が無くなってしまったのはさびしい限りではあるが、これも時代の流れの中の出来事と受け止めざるを得ないのである。



六十年代から平成まで

小川町道場の思い出

昭和五四年度 河田恵吾

この度の新道場の完成、誠におめでとうございます。新道場完成による我が明柔の益々の発展を切に希望します。去る十月四日の小川町道場のサヨナラパーティーには、小学校六年生の長男と共に参加しました。ものすごい額ぶれと人數でさすがに明柔ここにありと言う感じで、明柔パワーを実感いたしました。私も、この道場で鍛えられ、そしてこの先輩後輩の方のおかげで、今があるんだなあと実感しました。私も卒業して、早や二四年が立とうとしていますが、タイムスリップして、学生時代に戻ったような気分でした。学生諸君は本当に新道場に関しても、部長先生始め幹事の皆様方のご苦労のおかけであることと、この明柔パワーを決して忘れてならないと思います。ただ、ひとつ心配に思つことは、若いOB諸君の参加が少ないようだと思いました。特に現役で活躍されているメンバーや、二十歳台、三十歳台の方々の顔が少なく、淋しい思いをしました。これから明柔を考えいく上で、この若い人達がもっと参加しやすい雰囲気も必要で、はないかと考えます。

さて、今回小川町道場の思い出をとと言ふことですので、さらにもう一度、小川町道場の思い出をとお話しします。去る十月四日の小川町道場のサヨナラパーティーには、小学校六年生の長男と共に参加しました。ものすごい額ぶれと人數でさすがに明柔ここにありと言う感じで、明柔パワーを実感いたしました。私も、この道場で鍛えられ、そしてこの先輩後輩の方のおかげで、今があるんだなあと実感しました。私も卒業して、早や二四年が立とうとしていますが、タイムスリップして、学生時代に戻ったような気分でした。学生諸君は本当に新道場に関しても、部長先生始め幹事の皆様方のご苦労のおかけであることと、この明柔パワーを決して忘れてならないと思います。ただ、ひとつ心配に思つことは、若いOB諸君の参加が少ないようだと思いました。特に現役で活躍しているメンバーや、二十歳台、三十歳台の方々の顔が少なく、淋しい思いをしました。これから明柔を考えいく上で、この若い人達がもっと参加しやすい雰囲気も必要で、はないかと考えます。

私は、三重県立松阪高校という進学校で柔道をやっていました。柔道は、中学一年生から柔道一直線というテレビ番組に憧れてやつておりましたが、個人的には、全然強くもなれず、輝かしい柔道戦績など何もありません。高校では、わずか十名くらいの仲間で練習をやらやらやつていましたので、やはり強くはなれませんでしたが、自分なりには、生懸命やつて、青春に柔道とに高校生活を讃美していました。そんな私も三年生になり、進学をどうするかを考える段階になりました。同級生の仲間は、勉強をするということで、三年生になればクラブを引退します。私は、ひとつ下の進学校で上位に食い込みたいと決意しました。そこで、何とか国大で上位に食い込みたいと決意しました。結果は、やはり残せませんでしたが、最後までやり遂げて、夏休みから、今度は本格的に勉強をしようと思いまして。進学は、国立大学に進んで、一般大学生で柔道を続けるのか、もしくは東京の私立大学で専門的に柔道をやるのかを迷っていました。頭の成績のほうは、夏までは勉強をしてなかつたので、たいしたことはなかつたのですが、勉強を始めたら、成績がどんどん上がつていきました。学年で数番くらいままで来を決定付ける出来事が、ふたつありました。一つは、毎日するだけだと思ってます)そして、数学を選考していたこともあり、進学の実績を上げたい先生は、こぞって、国立大学を奨めてこられました。そんな風に悩んでいる時に、私の将いきました。(私は、大学受験は、頭が良い悪いでなく、記憶力

新聞の全日本学生優勝大会の記事です。その頃、私は、どこの大學生が強いとか知りませんでしたし、まして明治が輝ける成績を誇っていることも全然知りませんでした。そのなかで、私はおぼろげながら、東京の頭の良い大学の中では、明治、中大、早稲田が強いんだなあとわかり、柔道を続けるなら確かに大と東洋の決勝であったと思します。それは、私の一つ下の五名が、県の新人戦で二位までなったことです。そのメンバーは、私が本当に一緒に練習した仲間で、試合当日、部長先生がどうしても試合に参加できなかつたので、私が、監督代行でメンバーを組んだり、指揮をとつたりしました。そのメンバーがあれよあれよという間に、勝ち上がり、決勝まで進み、決勝では四対〇で負けましたが、堂々と二位になりました。私は、その時、滅茶苦茶感動して、弱くても努力をすれば報われるんだと、東京の大学で柔道をする決心をしました。そして、上記の三大学に絞り、さらに猛勉強を重ねました。今までの人生の中で、あれだけ勉強をしたことはなく、毎日四時間くらいの睡眠で、食事、風呂意外はほとんど勉強していました。それから、年が明け、私は、明治二学部、中大三学部、早稲田、学部と受験しました。友人からは、何故学部を選ばずに、同じ学校ばかり受けるんだと思議がられましたが、私は東京へ行つて柔道をするんだとそればかり語っていました。

猛勉強の甲斐があって、早稲田は落ちましたが、明治の商学部と経営学部と、中大二学部に合格しました、そして、迷わず明治の商学部を選択したのです。そこから、私と明治の出会いが始まります。

当初の決心の通り、明治で柔道をするつもりで上京しましたので、多分寮のようなものがあるだろうと思い、荷物も持たず、紙袋ふたつで上京し、神奈川県の親戚の家に居候しました。何もわからない私は、始めに和泉校舎で尋ね、御茶ノ水に柔道部があることを知り、御茶ノ水で尋ねて、小川町校舎にたどり着きました。当時、校舎に住み込みのおばさんが居て、親切に、午後から練習があるからと教えてくれて、當時マネージャーをしてみえた浜本先輩に引き合わせていた水に柔道部があることを知り、御茶ノ水でも尋ねて、御茶ノ水に柔道部があることを知り、御茶ノ水で尋ねて、小川町校舎にたどり着きました。当時、校舎に住み込みのおばさんと尋ねられ、厳しい面接の後、入部を許可されたよう見えています。

大学の練習は、想像していた通り、大変厳しいものでした。一年生の時は、練習と雑用で、本当にくたくたになり、何度もやめようと思いつながら、歯をくいしばりついていました。そんな時、四年生の先輩にやはり一般から入部された江川先輩と松浦先輩がおられ、大変良くして頂きました。特に、江川先輩は同じ三重県出身ということもあり、大変可愛がっていただきました。本当に暖かい先輩方のおかげで何とか続けることができたのかなと思っています。これから、早や二年、時の立つののは、早いものです。本当に、明治の柔道部が居て、親切に、午後から練習があるからと教えてくれて、當時マネージャーをしてみえた浜本先輩に引き合わせていた

に来てよかつたと思つてます。柔道を通じて、いろんなことを学ばさせていただきましらし、いろんな柔道の人達との付き合いがきました。たぶん、他の大学で柔道を適当にやっていればこれほどの思いではなく、又、私の人生も違つたものになつたと思います。当時、貧乏な薬屋をしていた両親には、金銭面で大変な負担をかけたと想いますが、無理して東京に出てくれた両親に感謝し、そして、今現在、家族にも恵まれ、仕事にも恵まれ、大勢の明柔の人達に支えられ、大勢の仲間とも知り合い、本当に幸せに暮らしております。最後になりましたが、これから明柔の益々のご発展をお祈りしまして、思い出とさせていただきます。

思い出

昭和四六年度 星野治ひろ

この原稿依頼がきてあらためて考えてみると、あんなことあつた、こんなことあつたと懐かしく思い出されました。私は明大中野高校出身ですので、高校の三年間と大学の四年間小川町道場で稽古をいたしました。初めて小川町道場で稽古をつけていたいたいのは、中学四年休みました。私の二学年上の兄（明治入学柔道部四年度卒業）がそれられて、小川町道場に行き中野高校の練習に参加させていただけました。そのころの監督が工藤先生でした。何本か練習させ

ていいただき、中学生と高校生の違いを嫌と言うほど思い知られました。「オイ星野、稽古するぞ」と声をかけていただき、投げられは立ち、またすぐに投げられるために、立つことがいかにきついかを知りました。終いには、立つことができず、這つて先生の膝にしがみつきましたが、先生は「ここまでは誰でもやれるのだ。これからだ。」とおっしゃって、稽古をつけてくださいました。しかみついては簡単に足で仰向けにされ、仰向きにされてはしがみついていつたことを思い出します。

小川町道場で、私は本当に多くのことを学ばせていただけました。大学四年間柔道部に在籍していたおかげで、素晴らしい先生方や諸先輩たちと知り合うことができたこと、また、同期の仲間や後輩たちとも知り合えたことを私は誇りに思っています。そんな小川町道場が無くなってしまうのはさびしく思います。

あゝ、小川町道場

昭和三五年度

小林忠吉

私達三五年組は、小川町道場第一号である。以来四十数年、よいよお別れとなると感慨一入である。こゝに恥を偲んで、下級生時代のエピソードを二、三紹介致したいと思います。

その一

当道場は、隣りの「主婦の友」社の屋上と同じ高さにあり、外を見る我が家庭の庭先の様に見えた。雑誌のグラビア作りの為か、女優さん達の撮影が時々行われて、私達はその光景を珍しく眺めていたものである。

或る日、稽古後風呂に入る前、窓際にズラリと並んで当時の人気女優「安西郷子」の撮影を見ていた。大部分撮影に熱が入っていたと見え先方は我々に気が付いていない。突然後ろから徳山先輩が「キヨウコチャーン」と大声で叫んだトタン。上級生達はサッと逃げ去り一年生だけが残ってしまった。同時に先方一同勢にこちらを振り向く、当然女優さんも笑美を浮かべながら注目、そのとき「腰を振らんか!」坂本行弘先輩の一喝、数名が命令に従う。こちらは入浴前、見事な陳列をお見せしてしまい今想い出しても赤面の懐かしい思い出である。

その二

稽古前に一年生が道場の掃除をするのは今でも変わらないと思うが、或る日筑波の山奥で育った私が風呂當番になった。ガスの使用など全く知らないので、大阪育ちの小田原か金城に教えを受けたが操作の順番までは教わらなかった。何せ初心体验なので稽古ドキ・ワクワク・期待・怖さが入り混りつつ、初めて元栓を開いて、マッチを探して、さて点火!!「ボーン」、マッチ棒は吹っ飛び、マツ毛は焦げ付いて目が開かず、大ゲ

サではあるが「人生の最期」とばかり道場へ飛び出した。と同時に二年生が待っていたかの様に「ワーッ」と歓声を挙げた。「やるぞ、やるぞ」と瞬間を待っていたらしい。特に坂田先輩（故人）が手を叩いて喜んでいた姿が今でも忘れられない。

そして一年後、「ボーン」と大きな音響と共に、目をパチパチ・頭をカキカキ佐藤治君・夢遊病者のごとく佐藤英吾君が現れた。言うまでもなく我々二年生はワーッと歓声をあげた。言うまでもなく我々二年生はワーッと歓声をあげた。

その三

風呂に入るには当然一年生が最後である。上級生が出た後、小さくなつた石ケンを器用に使い合いのびのびと湯に浸る。その後先輩達の汚れた道着の洗濯をする。当時洗濯機などは備つておらず、全て手で洗つた。デッキップランで裏表をゴシゴシこすつている内に手の皮が剥けてヒリヒリする。絞る時は二人掛りでプロレスの飛行機投げの要領で体を回転して絞るわけだが、これも修業の内と痛む手の平を我慢しつつ……。或る時、これが嫌で石橋正光君と三階の体を洗つ事にした。お互いに背中を流し合う事にし、先ずドアに向つた彼の背中を洗つてゐる所へ一人の女子学生が突然飛び込んで来た。ドアを開けたと同時に石橋君と「ゴターメーン」、双方「アッ!!」しばし涙然……彼女の視線がスッポンボンの彼の中心に集中……間もなく我にかえつた彼女は次の階へ走り去つて行つた。何かブツブツ言つていた様であったが聞き取れ

なかつた。多分言つたであろう、「フテエー野郎だ!!」と――。

小川町道場の思い出

昭和五三年度 佐藤英彦

私が初めて小川町道場を訪れたのは、今から三年前の夏になります。

当時、私は都内の公立中学二年生で、同じ中学校の水嶋先輩が、明大中野高校の練習に参加する時に、付き添いで行った事を記憶しています。私自身も縁があつて明大中野高校に入学する事になり、以降明治大学、また京葉ガス株と、私の柔道生活は常に小川町道場がベースとなつておりました。

さて、私の「小川町道場の思い出」となると、まず高校時代では、神永先生からの指導や大学生の先輩方の練習への参加、その後の新日鉄や博報館等の大学OBの先輩方との稽古等は、今でも鮮明に覚えております。

大学時代では、色々ありました。やはり大学一年生時の事が思い出します。五年生までいましたが、練習以外の雑用で苦労しまして、もう時効という事で許して頂いたのですが、道場の掃除の時に悪知恵を働かせ、畳のふき掃除を竹刀で巾をまいて短時間で行つたり、寒稽古の時には時間を稼ぐ為に、自宅組の山内君の車で道場まで移動したりと、少ない人数で

工夫しながら対応していた事等は、同期全員が忘れられない思い出になつてゐると思います。

また、学生時代は同期五名と少人数で苦労しましたが、逆にまとまりやすく、現在四名が東京在住とという事で、明柔会の活動へは微力ながら貢献していると思つております。

今回、道場が新しくなりますが、私にとつては明大柔道部道場は「小川町道場」であり、ここでの思い出は一生忘れる事なく、心に残つていると思います。

一つの時代が終わり、新道場での歴史が始まるにあたり、現在の学生諸君には、来年こそ新時代のスタートに相応しい活躍を期待する次第です。新しい歴史を開く第一歩なのですから。

一畠のタタミ

昭和四十年度 段上雄一

私が初めて明大の道場を訪れたのは明大中野中学の三年生の終り頃、工藤欣一先生に連れて行って頂きました。夜の事でした。道場は狭く変形でした。それでも多くの部員が活気張る稽古で、夜間の稽古を終えてからの中野生を初め比嘉、甲斐、渡辺（邦）、大橋、高田（誠）の先輩方もおりました。明大中野高校時代は主に二部の学生との合同稽古でした。

そして明大全盛期の時に入学、体重別の試合が無かつた時、大きい人が多く特に坂口先輩と山本忠夫先輩が稽古するとき場が一段と狭くなりその上マンボダンスを踊るが如く関先輩があつちこつちと動き廻り七組一四名位しか出来ません。部員も大多く小さい私、ほとんど汗をかく事のない日々でした。

当時は常勝チームだったでの時々祝勝会が道場で行われました。豊の上にワラバン紙をならべて、車座に成つての祝宴、

この時だけは同期の坂本君と歌や珍芸を披露して道場狭しと充分に汗をかいものでした。一年生時の稽古前の道場の掃除の時は積極的にトイレに入り戸を閉め、じいっとして時間をかせいだものです。又毎週土曜日先輩方の稽古衣の洗濯では風呂場で何十着も、ティックラシに亀の子タワシを使い、二人掛りで絞り窓際一面に干す。冬、風呂のボイラードがよく故障して、冷水しか出ない事があった。その時ボイラードの隅で鳩の親子が寄りそっているのを見て「何か」を感じたのを今でも鮮明に記憶して居ります。やがて東京オリンピックを前にして、アメリカ、フランス、オランダ等いろいろな国チームが訪れ狭い形の道場も世界的有名になりました。ソ連サンボチームがやつて来た時知らずに土足で上がろうとして、姿先生が「他人の道場に靴で上りやがって」と立腹したものです。近年に成つて益々全国チームが訪れ、私が若い頃指導したチニジアチームもお世話になり、アフリカで最初の世界チャンピオン(六十K級)も誕生させました。狭い道場でしたが、我々の稽古、夜間二部柔道部の稽古、又昔

の「道場の思い出」は明大中野高校時代と大学四年間に分かれます。昭和三六年三月、明大中野高校への入学が決まり、中学在学中に初段を持つて入った私は、父の知人を介して春休み期間中に明治大学の小川町校舎五階の柔道場で稽古をしていました。中野高校柔道部に連れていかれました。この時が初めての「道場」との出会いでした。

工藤欣 先生にご挨拶後、早速道着に着替え何人かの方と稽古をしましたがその時の状況は、全く覚えていません。

入部して最初に驚いたのは「学校に柔道場がない」ということでした(校舎立て替えによるもので、三年になるまでありませんでした)。毎日ランニング、体操、鉄棒をし午後六時頃から「小川町の道場」へ向かい明大の二部柔道部の先輩方と一緒に稽古をしたことを思い出します。

また、工藤欣 先生の御指導の下、大学の稽古にも参加するよう指示があり、何回か「小川町の道場」へ行きましたが「稽古」をすると言うことは程遠いものがありました。曾根先生、神永先輩を始め、名だたる方々が目の前、同じ道場にいる、その感激は今でも忘れられません。また、このような環境で身近に先輩方の稽古を見ることが

小川町道場の思い出

昭和四二年度 片山義則

私の「道場の思い出」は明大中野高校時代と大学四年間に分かれます。

昭和三六年三月、明大中野高校への入学が決まり、中学在学中に初段を持つて入った私は、父の知人を介して春休み期間中に明治大学の小川町校舎五階の柔道場で稽古をしていました。中野高校柔道部に連れていかれました。この時が初めての「道場」との出会いでした。

工藤欣 先生にご挨拶後、早速道着に着替え何人かの方と稽古をしましたがその時の状況は、全く覚えていません。

入部して最初に驚いたのは「学校に柔道場がない」ということでした(校舎立て替えによるもので、三年になるまでありませんでした)。毎日ランニング、体操、鉄棒をし午後六時頃から「小川町の道場」へ向かい明大の二部柔道部の先輩方と一緒に稽古をしたことを思い出します。

また、工藤欣 先生の御指導の下、大学の稽古にも参加するよう指示があり、何回か「小川町の道場」へ行きましたが「稽古」をすると言うことは程遠いものがありました。曾根先生、神永先輩を始め、名だたる方々が目の前、同じ道場にいる、その感激は今でも忘れられません。また、このような環境で身近に先輩方の稽古を見ることが

稽古の内と工藤先生から、指導を受けたことを、思い出します。

川町の道場

です。

大学での思い出は、まず、東京オリンピックの合宿練習、無差別の神永先輩、重量級の猪熊さん、中量級の岡野さん、軽量級の中谷先輩、出場選手の稽古台として参加したことです。

また、姿師範に声をかけられ稽古相手をさせられたとき程緊張したことはありません。

この事は、多くの方に理解していただけたと思います。

ある時、曾根先生から「こいつただんしているだけだよ」と神永先輩に話され、私自身大変気はづかしく、居場所がないような体験をした三八年前の「道場」を懐かしく思い出します。

明大中野高校、明大柔道部の七年間を通じ、「小川町の道場」で稽古した、この体験は私にとって、何事にも変えがたい貴重な財産であり、大きな活力になつております。

現在「食」の世界で世の為人の為、少しでも社会に貢献出来るよう努力し、もう一段ステップアップしたいと、ささやかな希望を持って頑張っています。

は久米勝先生方が指導されていた正課体育の授業等々あの道場の「一畠」のタタミ使用率又オリンピック、世界選手権等のチャンピオン排出率は日本一いや世界一だと思います。



懐かしい四畠半でくつろぐOBたち

後も一歩一步努力していきたいと考えています。

小川町校舎五階道場

昭和五二年度 段上道夫

そこは明柔会会員の諸先輩、後輩の皆様にとって想い出深く独特の雰囲気を持つ特別の場所であったと思います。

五階までの擦り減った階段は歴代の部員が減らした歴史の証しであり、上りは重く下りは軽かつたのです。

十月四日のサヨナライベントの時は午後三時三十分頃道場へ行くと、先輩方が大勢来られていて柔道着姿で元気よく稽古や雑談をしておられました。私も早速着替え年近い〇先輩、Y後輩と久々に樂しい柔道（少し真剣）を始め、すぐに息が上がり「こんなにきつい事をよくやっていたな」と、つづくずと思いました。

久々に道場の風呂につかり一年生時の風呂当番などを思い出しながら横山酒店へ直行。した。

幹事会の後、いよいよ小川町道場サヨナラパーティが全国各地から集まつた明柔OBによって、賑々しく始まりました。

第二道場（横山酒店）はなくならないので、H・S・I先輩、後輩のI君などは三時から直接第二道場に来ており、皆第二道場経由で第一道場のお別れ会に向いました。

この時のビールの味は格別にうまかった。

あの頃のこと

昭和三四四年度 渡辺邦雄

今回、この会報の発刊にあたり、原稿の依頼を受けました時は、「一体何を書けば良いのか」と迷いましたが、私の心に残る思い出を書くことに致しました。これから書きます事にズレを感じます方もいらっしゃるかもしれません、あくまで私の思い出、記憶でありますことをご了承頂きたいと思います。

さて、私にとつてこの伝統ある明治大学、柔道部に入学、入部できたことが何よりも心に残る思い出であります。高校時代、先輩でもある兄の稽古する姿、活躍ぶりに憧れ、私も兄と同じこの大学、柔道部に入部したいと強く思いました。しかし、勉強の出来ぬ私の事、まともに入学できるはずもなく、兄と共に、生田にある葉山先生住宅を訪ねお願い、マネージャーであつた五島光さんにもお願ひしやつとの思いで入学を致しました。晴れて入学、入部させて頂いた年はちょうど狭い地下道場から小川町新校舎に出来た道場に引越しをする年であります。狭い地下道場時代、新入生であった我々は道場の壁を背に二重、三重に立ち、上級生の指名によつて稽古をするという状態で稽古らしい稽古が出来ずいたと記憶しています。八月、夏の強い日差しを浴び、額に汗しながら畳を抱ぎ、地下道場から交通量の多い小川町通りを横切り、

久しく会つていなかつた先輩、同輩、後輩たちの昔話は大に盛り上がり、時間を忘れるほどでした。コンビを組んで数十年となる坂本先輩と兄によるショーも有り大爆笑のうちに定時となり、OB学生全員による小川町道場最後の校歌齊唱をもつて懐かしい道場に別れを告げました。

道場での数ある想い出の中で一つ告白します。四年生のある日の事です。同期のO君と、練習後一人でトレーニングをし、皆が帰った後、何かで頂いた酒があるのを見つけ風呂場で温湯で一升空け、翌日管理のおばさん（当時は一階管理室に居りカギを渡して帰った）に風呂場が酒臭かつたと怒られました。十二月六日待望の新道場の修祓式が行なわれましたが、旧道場の畠について聞きました所、ラオスのスポーツ省へ寄贈されるそうで、我々柔道部の汗のしみ込んだ畠が海を越えラオスの若い人達に使ってもらい国際大会で活躍する選手が出る様に成れば…と楽しみです。明大柔道部OBとしでの誇りが又一つ増えました。

明柔会事務局長はじめ事務局の皆様には、日頃、多忙の中での職務又、新道場への引越、名札の移動等々大変な仕事だと思います。この場を借りて御礼申し上げます。

新道場へ引越しをしました。新道場では地下道場の頃とは一変、自由に稽古することが出来、稽古も神棚から左側に姿先生が部員達に稽古をする場所、壁際に一年生、風呂場付近に向かって二年生、三年生、四年生と順に並び、窓際は卒業した先輩方が稽古をする場所と自然とその場所が決つてありました。そして、柱の前にはあの葉山先生。先生が腕を組み、眼光鋭くただ見てゐるだけで、道場は緊張感に満ち、部員達の稽古にも一層力が入り、張り詰めた空気の中、私は先生の偉大さを感じさせられました。（兄の話では地下道場でもその様であったとの事。又、新道場には販賣つて稽古の出来ない者、それ以外の者の集まる所があり、その場所を曾根先輩は「四畳半道場」と名付け、ケガ以外で稽古しない者に対し厳しい言葉で注意をしておられました。一年生の時は五階にある道場へ向かう階段を上る足が、「これから上級生に投げられるのだ」と思うと重く感じ、二年生、三年生になると「どう稽古をするか、下級生に投げられないようになるにはどうするか」という思いに変化していったのを覚えています。稽古に明け暮れた大学を自力で卒業してから、約半世紀。今となつてはどれも良い思いであります。今、在籍している学生もこの伝統ある明治大学柔道部の誇りを胸に稽古に励み、私があの頃に感じた気持と同じように感じてもらいたい。学生諸君の精進を期待し、祝勝会等での時代の方々、学生と共に語り合い美酒に酔いたいと思います。

サヨナラ、小川町道場

昭和五二年度 井上恭夫

小川町道場と姿先生

昭和五四年度 栗原 三千男

三 千 男

私が明治大学に入学したのは昭和四九年でその頃は学生運動が盛んで道場に入るのも小川町校舎の裏口からだったよう

に記憶しています。

当時は今のようにブレザーではなく学生服を着用していましたのでトラブルを避けるため学生服は一時禁止となり、私服で通学するよう指示されました。私は農学部で生田校舎に通っていました。一年次、三年次はロックアウトで校舎は閉鎖されていました。十月四日の道場のお別れ会のときは農学部出身の江川、松浦の両先輩、後輩の山内君、佐藤忠司君に会えて懐かしく最高にうれしく思いました。

道場の思い出といえば、今も同様だと思いますが、あの狭い道場で、学生と、新日鉄、博報堂その他の企業団のOBが稽古をしていて、ごった返していたことが頭に浮かびます。初めて道場を見た人は天下の明治が私の道場で稽古をしていることに皆驚いていました。それと私の大きな思い出は姿先生です。いつも道場にいらして毎日稽古をつけていただきました。先輩たちが私に目で合図をし姿先生のところにお願いするというものが暗黙の了解のようでした。一年から四年まではほぼ毎日姿先生には稽古をつけていただきました。四年間のつらかったことや、楽しかったことが今は走馬灯

のよう思い出されます。

いています。

道場との別れは寂しいものではあります、一番寂しがつておられるのは姿先生かと思います。（生前先生はこの道場で死ねたら本望だとおっしゃっていました）

小川町道場と姿先生、私の命のある限り私の中に何時までも生きていで下さるようお願いします。

最後に新道場が十一月完成の運びとなり心からお祝い申し上げます。また新たな明大柔道部の歴史を深く刻んでいくことを楽しみにしてています。



河田父子

山内

金子



佐藤忠司と息子たち

とうとう小川町道場とお別れの日がやってきました。

私にとって道場との出会いは衝撃的な出来事がありました。九州の田舎からセレクションで上京した折に見た道場は、自分自身が抱いていた道場観（東京の大学の道場は広くて新しいもの）とはかけ離れていたからです。

しかし卒業までの四年間この道場でお世話になることがあります。短いようで長い四年間でしたが苦しいとき、楽しいときを暖かく見守ってくれました。この道場で得た様々な教訓は数え上げたらきりが無いでしよう。私の宝物として今的人生に役立たさせてもらっています。

たくさんの偉大な先生、先輩を輩出し長きにわたり伝統受け継いできた道場に感謝することも、お別れすることは寂しいことです。が樂しい思い出に変えてくれると思っています。まだ、私にとってこの道場とともに忘れないのが姿先生です。先生と道場とはどこか似合いのカップルではありますか？切つても切れない仲ではなかったかと思われます。

暑いときも寒いときも道場に通われ我々を鍛えて下さいました。先生のおおらかな人柄がそのまま私の目の奥に焼きつ

明治大学柔道場の思い出

昭和三年度 大橋武彦

昭和三年明治大学柔道部へ入部して初めての稽古は、駿河台の地下道場であった。何故か夏休みまでの地下の五七畳しかなかつた、小さな道場が懐かしく思いだされます。本立ち五人一年生はお願いしますと黙つて先輩の襟をもつても、上級生に取られてなかなか稽古がさせてもらえませんでした。

しかし、小川町校舎五階の広くなつた道場では一年上の神永、比嘉、徳山、甲斐、富賀見さん等又、同級生の渡辺邦、篠原、谷藤達と、毎日毎日稽古したことでも大きな懐かしい思い出です。

同級生の関口耕二が白帯で入つてきて四年間努まつたことは当時のことを思うと素晴らしい快挙であり、友として誇らしく思います。

樂しかつたのは、当時全日本選手権に出る選手がよく稽古に来ました。例え京都の長身の小田雄三選手を疲れた頃お願いしますと、稽古でぶん投げたこと等。姿親分が神永さんが巧く飛んだら「どうじゃ！ まつったか！」とさ

れていたのも印象的でした。我々明治大学柔道部OBは学生時代に培われた、葉山先生や姿先生の教えを受け、又先輩や同級生後輩と共に汗を流し、そして柔道部の伝統と名譽を守るべく稽古に明け暮れました。

甦れ、第二部歌

昭和三年度 小川登志雄

ご記憶にある方も居られると思いますが、柔道部には第二部歌がありました。ありました、と言うのは昭和三十年代に

神永昭夫先輩が全日本柔道連盟の専務理事になるとき言われた「我々は柔道のお陰で今日がある、柔道に恩返しをしなくてはいけない」頼むぞ！と言われた言葉を大切にして今後も、柔道部に恩返しをしてゆきたいと思つております。

此度、新道場の柔道場を小生の会社で納入させてもらったことは喜びでした。

柔道部員の今後の活躍を心より祈つております。

なによりも、四年間明治大学柔道部の道場で一生懸命稽古し無事努力されたことが、今生きている自信と誇りになつています。

我が柔道部はオリンピック、世界選手権、日本選手権等を獲得した幾多の名選手を生み出している日本一の柔道部であります。

又、明治大学は日本のなかでも有数の大大学であることも良く認識することも大事です。

学生諸君には学生時代に、自分達にしてもらつた恩を忘れずには卒業したら後輩達に返して上げて下さい。

神永昭夫先輩が全日本柔道連盟の専務理事になるとき言われた「我々は柔道のお陰で今日がある、柔道に恩返しをしなくてはいけない」頼むぞ！と言われた言葉を大切にして今後も、柔道部に恩返しをしてゆきたいと思つております。

此度、新道場の柔道場を小生の会社で納入させてもらったことは喜びでした。

柔道部員の今後の活躍を心より祈つております。

部員の間で機会あることに歌われていたのが近頃いつの間にか聞かれなくなつてしまつたからです。

「若い血潮の男子等が、日夜技を練り、身を磨き……」旧制高等学校寮歌風で朗々と歌つていたものです。

昭和三十年の夏、松竹映画会社が学生柔道をテーマにして映画を製作しました。「若き潮」という題で出演は石浜朗、笠智衆、山田五十鈴も出てたかな？

柔道の試合や乱取稽古の場面に幾人かの部員が出演しましました。しかし部員の顔は映らずうる姿とか足の動きだけの出演でした。当時はアマチュア規定がまだまだ厳しかつたのでしょう。投げ技の決まつた瞬間に主演の石浜朗の顔がグーンとアップで映りました。

この映画の主題歌が「若き潮」で映画の中で歌われました。映画が出来上がりつた後この歌が映画会社から柔道部に贈られました。しかし部員の顔は映らずうる姿とか足の動きだけの演出でした。当時はアマチュア規定がまだまだ厳しかつたのです。

稽古をつけてもらいました。稽古をつけてもらいました。

「遠き戦の世に生れ、大和國原乱るとき……」戦後十年が経ち日本が高度経済成長を目指しそれぞれ眞面目に働いていた時代でした。我々、二年生部員は下積みの苦労を充分に味わいつつかり鍛えられていた頃の事です。

いま巷間に「声を出して読みたい日本語」ということが盛んに言われています。古典や名作、有名な詩歌の一節を熟読

玩味しましょうと言う事なのでしょう。

われらが柔道部には他にそれを求めずとも既にして味わい深い歌を持っているのです。歌詞は七五調、声を出して読むにも極めてリズミカルです。

私は風呂に浸かつた時にこの歌詞が口を笑いて出るこれがよくあります。「貧しきこと恥ならず、虚しき事を追うあらず……」ふむふむ、成る程。良き師良き友華ありて……」柔道部に入り良き友にめぐり合い、お陰でどれほどか人生を豊かに過ごすことが出来たことが……など思いがめぐります。

この第二部歌がいまから甦つて歌い継がれていくことを楽しみ期待しています。歌詞を記しておきます。じっくり読んで味わっていただいたいと思つています。但し、長い間口ずさんでいるうち読み違えなどがあるかもしれません。間違つた箇所がありましたらお知らせ下さい。

「若き潮」（明治大学柔道部第一部歌）

若き潮の男子らが

日夜技を練り身を磨き

花下影に立つときは

誰が面影ぞ偲ぶらん

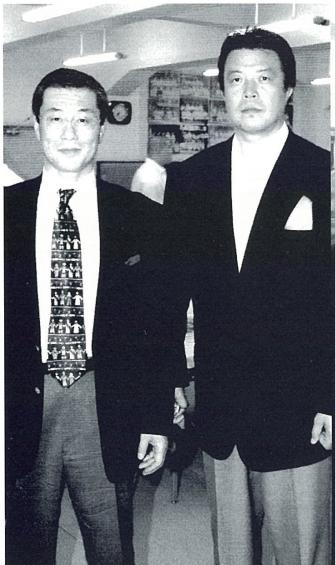
遠き戦の世に生まれて

小川町道場

ありがとう パーティー



学生のサービス係



桜田



藤原

松村



貧しきこと恥ならず
虚しきことを追うあらず
良き師良き友華ありて
白道のもと吾はゆく
李白、王維の詩を読みて
杜甫の愁いを悲しみつ
勢と力の若人が
今ぞ命の火ぞ燃ゆる

大和國原乱るとき
技を柔と人問えば
道を誠と答うべし



塩見 伊藤

神永



小川町道場最後の校歌斎唱学生



歓談



小川町道場最後の校歌斎唱 OB



野坂

細川

菅谷

岩戸



謹 聽



宮下

丸山

杉山

落合



歓 談



山口

小川



アトラクション 段上

坂本



関

桜田

植草



二次会

五三年、五四年度組



原

小野瀬

世界柔道選手権大会を終えて

全柔道強化委員長 上村春樹



八年振りに日本で開催される世界選手権に我々は必勝を期す為、代表選手権にて我らが決まり手を落とし心配された選手がいたが、最終合宿の頃には全員が順調に仕上がりってきた。

特に今回の世界選手権は、世界一を決めるだけではなく近年のアテネ五輪出場権のかかった大会であり、より多くの金メダル獲得、全員がメダルを獲得し全階級の出場権をこの大会で決めることを目標に、万全を期し試合に臨んだ。

一日目、一〇〇キロ級の井上は、心・技・体が充実し調整段階から金メダル間違いない仕上がり具合だった。その戦い振りも緒戦より決勝戦まで終始試合の主導権を握り、全て一本勝ちの圧倒的な強さで見事三連覇を達成した。今後の課題と言えば、横への崩し、攻めを完成させねば万全になる。

一〇〇キロ級の棟田は、長身の外国勢に苦しい戦いを強いられたが、混戦をしのぎ二度目の挑戦で金メダルを獲得した。

た七〇キロ級の上野は、その後二年間なかなか勝てず苦しんだが、その間の地道な努力が実を結び大きくなり成長してくれた。試合は全て一本勝ちで金メダルを手中にしミユンヘンに続く大会二連覇をはたした。試合内容も良く、常に前に出て、組み手は細心の注意を払い組み、組んだら胸を張り大肌に攻めるその姿は、女子柔道の三本目の柱として頗るしい存在となつてきてくれた。今回得た自信を本当の自分の物としてこれからも努力精進して欲しい。六三キロ級の谷本は、前回銅メダルを獲り、アジア大会で優勝するなど、順調に成長してきたが、二回戦でティエンゴバ（չԵՇ）に不用意に組み手を行つたところ隅返しをくら一本を取られてしまつた。技はキレるが組み手の厳しい相手ともしぶとく戦える粘っこさを身に付けて欲しい。力を出し切らないままの敗退が悔やまれる。

三日目、前回もう一步で金メダルにとどかなかつた七三キロ級の金丸は今回期待されたが四回戦でリード（韓国）に右組みからの上手い左の体落しに一本負けとなつた。敗復後に廻りアクバロフ（ՎԱԶԵԿՏԱՆ）に注意でリードしていたが、強引に背負い投げに行つたところを裏投げで一本取られメダルを逃がした。金丸の攻めのパターンは読まれており攻撃の幅を増やす工夫が必要、六六キロ級の鳥居は、四回戦でベンズダウ（ֆրանս）に有効を先行され大内刈りで技ありを取り返しホツとした直後返して痛恨の一一本負けをした。敗復も内股を透かされ有効を取られ敗退した。鳥居は何でも器用にこな

しかし、来年のアテネへ向けては、組み手の多様化、強力な得意技の確立、連絡技の修得が必要。四連覇を目指す七八キロ級の阿武は、持ち前の上手い試合遊びで他を寄せ付けず、安定した試合内容で優勝した。阿武はこの階級の第一人者であり、もっと自分に自信を持つて戦えるようになれば来年の金メダルも見えてくる。最近地力を付け安定してきた七八キロ級の塙田は、決勝戦までは他の選手を圧倒して勝ち上がった。決勝ではフーミン（中国）に一本背負いで投げられたが、確実に力をつけており来年のアテネ五輪に期待が持てる銀メダルであった。中国の重量級陣は強力なパワーを持つており、それに対抗する為のパワーアップは勿論の事であるが、それ以上に強力な組み手の確立が必要である。

二日目、九〇キロ級の矢崎は、三回戦でオノラート（պարջիլ）に釣り手だけを持った状態になつたところを出足払いで一本負けを期し、敗者復活戦にも廻れずメダルを落としてしまつた。まだまだ組み手が甘い。それに組んだ後の攻めが遅く、技が単発なのが気がかりだ。八一キロ級の秋山は、順調に準決勝に勝ち進みワッソル（ドイツ）との対戦も指導一つの差でリードしていたが、ラスト六秒で下がつたところを逆転の大外刈りで投げられてしまつた。三位決定戦も元気なくメダルを逃してしまつた。とともに秋山は、パワーには定評があるが、力に頼りすぎる嫌いがある。いい技を持つているのだからもっと技術に立脚した攻めを心がけで戦える選手にならなければならぬ。二年前の世界選手権で見事金メダルを獲つ

すが、軸となる技・攻めがない。早急に身上に付けなければならぬ。五七キロ級の茂木は四回戦でルベティ（կյուիս）に自分の柔道が出来ず敗れてしまった。敗復も攻めがチグハグで良いところ無く敗退。世界挑戦初めてで緊張がほんの少し緩んで思い切った技で攻めきれるようにならなければならぬ。五二キロ級の横沢は、準決勝で長身のウラニエ（フランス）に攻めきれず内股で有効を取られ敗戻にまわる。三位決定戦はシングレトン（英）に積極的に攻め来年につながる銅メダルを獲得した。この階級は長身に劣る横沢は、これをカバーする為には組み手の多様化、足技を多用し得意技につなげる攻めを強固にしなければならない。

四日目、二年間のブランクのある六〇キロ級の野村は、総盤ながら簡単に一本で勝ち上がつたが、三回戦でディフェンチン（չյունիժան）のルニフィ（չյունիժան）と対戦し、終盤まで技あり、有効三と圧倒していたが、執拗に奥襟を取つてくる攻めに自分の攻めのリズムを崩し息が上がつしまつた。ラスト三〇秒野村が棒立ちになつたところを横車で有効を取られ、そのままガッチリと抑えられてしまつた。しかし、敗れたとはいひえ技のキレ、地力ではこの階級No.1である。アテネで金メダルをより確実にするためには、どんな相手でも組みとする強力な組み手の確立、五分間攻め通すスタミナの養成が必要。無差別の鈴木は、体力的に勝る外国強豪選手にボイントを先取される苦しい戦いが続いたが、上手い組み手と効果的な足技を使い世界初挑戦で見事金メダルを獲得した。

鈴木は元々一〇〇^{kg}級の選手であるが、一〇〇^{kg}超級でもやれるメドがついた。しかし、今後この階級で勝ちつづけるためには、自分より重い、しかし、自分の組み手の強化をしていかなければならぬ。史上初の六連覇を目指す四八^{kg}級の田村は、絶戦から安定した試合運びで危なげなく決勝戦に上がった。決勝戦のジョシネ(仮)との対戦は結果的には反則一つの差しかなかつたが、その戦い振りは負けを排除した危なげの無いものであった。たしかにその状況に応じて戦い方ができる勝負強さは大変なものであるが、近年ケガも増えてきており、来年に向けてもう一度基礎体力アップを図りケガに強う身体作りを心掛けることが必要、女子無差別の新谷は、去年のアジア大会で膝の大ケガをして初の復帰戦。あの大ケガ後よここまで復帰してきた。リハビリ、体力強化等にはJISの全面的な協力得て、また技術指導にはコーチがマンツーマンで個別合宿を精力的にこなし、そのレベルはかなりのところまで戻ってきた。しかし、一年ぶりの試合であり、試合勘が戻っていないこと、組み合って競り合うスタミナ不足がひびき総戦で敗れてしまった。もともと柔道センスはやはり地力のある選手で、今後練習を積み柔道勘さえ戻つてくれれば来年のアテネでのメダル獲得が十分に期待できる。

以上により、日本柔道の成績は金メダル六個、銀メダル一個、銅メダル二個となり世界トップの座は確保することが出来た。この結果に我々としては決して満足するものではない。得したイラン、チュニジアは今回も金メダルを取った。決してマグレではなく確実に各国が強くなつてきている証明である。

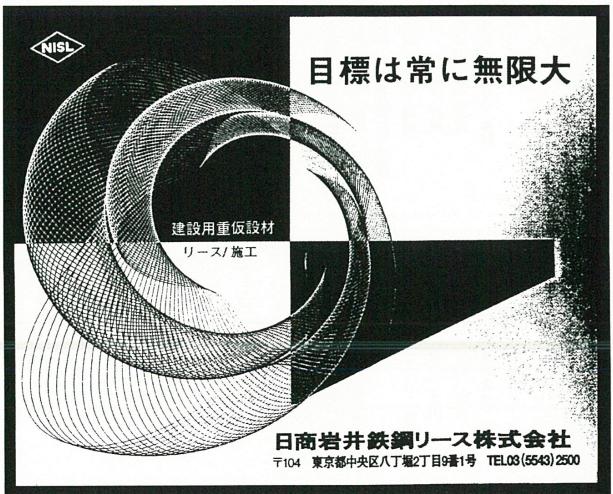
我々は、来年のアテネ五輪へ向けて、代表選手全員が優勝候補に上げることの出来るチームを作り、全員がメダル獲得、そしてより多くの金メダル獲得を目指すつもりである。そのためには、選手の更なるレベルアップを図らなければならぬ。特に、今回出場権を逃した男子九十・七三・六六^{kg}級、女子六三・五七^{kg}級は、思い切った抜本的な強化対策を打ち、心・技・体を兼ねそろえた選手作りには全力で取り組む所存である。

また、未来永劫日本柔道が世界で勝ちつづけるためには、一朝一夕で築けるものではない。選手強化の特効薬ではなく、欧米人に体力的に劣る日本人に合つた柔道の完成、すなわち技術に立脚した柔道を、あくまでも追及して行かなければならぬ。そのためには、技、体捌き、組み手等の基本、崩し、作り、掛け等の基礎を初心者の時からキチンと指導し、身につけさせることが肝要である。これは、今後、全柔道人が力を合わせて、英知を結集して取り組む最重要課題である。ぜひ、日本柔道の将来を明るくする為に今から取り組んでいきたいと思う。

が、現在の世界柔道の状況からすると納得せざるを得ないものであったと思う。

ただ、我々は、キチンと組んで戦う組み手の強化・多様化、確実に一本とする得意技・連絡技の確立、最後まで攻め通す気力・スタミナの養成に重点を置き選手強化に務めてきた。井上や田村、阿武らは完成させつつあるが、その他の選手はまだ不十分である。アテネ五輪まで一年を切り、五輪で今年以上の成績を納めるためには、今後、代表の可能性のある選手に、これらを最重点課題とし早急に確立すべく鋭意取り組んで行かなければならぬと痛感した。また、昨今のメダルの分布は益々広がりを見せてきていている。今回も女子で初めてアルジェンチンが金メダル獲得するなど、限られた強豪国間のメダル争いから、ますます全世界的な争いに様相を変えている。

その中でも、今年はアジア諸国が大躍進した。金メダル十六個の内、十三個(日本六個、韓国三個、中国二個、北朝鮮一個、イラン一個)をアジア諸国が獲得した。このアジア諸国の中、金メダルの獲得は出来すぎたが、金メダルを取れなかつた旧連邦諸国の不振が目立つた。しかし、旧連邦諸国は、力的には金メダルを目指す日本柔道のライバルであることは紛れもない事実だ。一方、最近低迷したドイツ、フランスがかなり復活してきた。両国はかなりの頻度で合宿に来日する等、選手強化に力を注いでおり、その成果が確実かつ強力に現れてきている。また、前回初めて金メダルを獲



学生大会成績

◆平成15年全日本選手権大会 (4・29 日本武道館)

◆第36回全日本選抜柔道体重別選手権大会

(4・6 福岡市民体育館)

△66kg級

●1回戦

○寺居 (徳) 平野 (兵庫県警察)

●準決勝

寺居 (効果) 村上 (天理大)

●順位

①村上 (天理大) ②重松 (府中刑務所)

△90kg級

●1回戦

○泉 (小内刈り) 三矢 (日本道路公団)

●準決勝

③寺居・西野 (一徳寺学園職)

●順位

泉 (有効) 飛塚 (一徳寺学園職)

●順位

①矢萬 (一徳寺学園職) ②飛塚 (一徳寺学園職)

●順位

③泉・廣川 (一徳寺学園職)

◆平成15年東京学生柔道優勝大会 (5・25 日本武道館)

●1回戦 シード

○泉 (判定) 篠原 (天理大教)

●順位 ①井上 (総合警備保障) ②鈴木 (平成管財)

③篠原 (天理大教)・森 (北海道警)

◆第52回全日本学生柔道優勝大会 (6・28～29 日本武道館)

●1回戦

○明大 7-0 劍値大

○明大 7-0 濱島 (内股)

○明大 7-0 海老沼 (横四方固め)

○明大 7-0 北島 (内股)

○明大 7-0 古賀 (内股)

○明大 7-0 豊士 (内股)

○明大 7-0 大和 (上四方固め)

○明大 7-0 伊郷 (内股)

○明大 7-0 濱島 (横尾)

○明大 7-0 鈴木 (内股)

○明大 7-0 古賀 (内股)

○明大 7-0 友行 (内股)

○明大 7-0 保立 (掬投げ)

○明大 7-0 中村 (内股)

○明大 7-0 濱島 (横四方固め)

○明大 7-0 拓殖大 (内股)

○明大 7-0 日當 (引き分け)

○明大 7-0 林 (内股)

○明大 7-0 清水 (内股)

○明大 7-0 濱田 (横四方固め)

○明大 7-0 豊田 (内股)

○明大 7-0 濱田 (横四方固め)

○明大 7-0 井坂 (内股)

○明大 7-0 井上 (引き分け)

○明大 7-0 竹坂 (内股)

○明大 7-0 保立 (内股)

○明大 7-0 佐藤 (内股)

○明大 7-0 小原 (内股)

○明大 7-0 井上 (横四方固め)

○明大 7-0 名嘉山 (内股)

○明大 7-0 保立 (腰固め)

○明大 7-0 南 (内股)

○明大 7-0 松崎 (内股)

○明大 7-0 大川 (内股)

○明大 7-0 井上 (内股)

○明大 7-0 村上 (内股)

○明大 7-0 小野 (内股)

○明大 7-0 河原 (内股)

○明大 7-0 百瀬 (内股)

○明大 7-0 泉 (内股)

○明大 7-0 岩上 (内股)

○明大 7-0 濱田 (内股)

○明大 7-0 井上 (内股)

○明大 7-0 保立 (内股)

○明大 7-0 上坂 (内股)

○明大 7-0 国士大 (内股)

○明大 7-0 東洋大 (内股)

◆第52回全日本学生柔道優勝大会

(6・28～29 日本武道館)

井上 (優勢負け) 竹森 ○

○泉 (肩車) 永塚

澤田 (引き分け) 小貝

○保立 (背負い投げ) 松本

河原 (引き分け) 稲澤

大和 (総合負け) 穴井 ○

古賀 (引き分け) 水野

○泉 (釣込腰) 上村

○南 (上四方固め) 甲斐

○古賀 (袈裟固め) 片岡

河原 (引き分け) 片岡

井上 (内股)

○明大 2-4 天理大

○明大 2-4 濱田 (内股)

○明大 2-4 水野 (内股)

○明大 2-4 佐藤 (内股)

○明大 2-4 小原 (内股)

○明大 2-4 井上 (内股)

○明大 2-4 松田 (内股)

○明大 2-4 金本 (内股)

○明大 2-4 大和 (内股)

○明大 2-4 井上 (内股)

○明大 2-4 保立 (内股)

◆第22回ユニアード大会

(8・25～29 韓国・大邱)

△66kg級

●1回戦 シード

○寺居 (徳返) ピキシ

●順位

①国士大 (徳) ②東海大 (徳)

●順位 中大
①国士大 (徳) ②東海大 (徳) ③天理大

●3回戦

○寺居 (徳返) 幸太郎

○寺居 (徳返) 井上

○寺居 (徳返) 佐藤

○寺居 (徳返) 金山

○寺居 (徳返) 岩谷

○寺居 (徳返) 大槻

○寺居 (徳返) 小野

○寺居 (徳返) 秋山

○寺居 (徳返) 江藤

○寺居 (徳返) 河原

○寺居 (徳返) 河原

● 3回戦

○寺居（跳躍）ガントクム

● 4回戦

○寺居（有効）海秀（中国）

● 準決勝

○寺居（技あり）アダメル

● 決勝

○寺居（反則勝ち）アレンシビア（キュー・バ）

▼順位

①寺居 ②アレンシビア（キュー・バ）

③クルナク（スロバキア）・

ネウ（ハンガリー）

▽90 kg級

● 1回戦 シード

● 2回戦

○寺居（横車）ラジシャニ（ハンガリー）

● 3回戦

○泉（有効）ツラエフ（ウズベキスタン）

● 準決勝

○泉（技あり）朴先雨（韓国）

● 決勝

○泉（横車）ラジシャニ（ハンガリー）

● 1回戦

○田中（裏投げ）宮田（崇徳高）

● 2回戦

○田中（反則勝ち）豊田（八代工高）

● 3回戦

○田中（警告）池野（日大）

● 決勝

○田中（裏投げ）宮田（崇徳高）

● 1回戦

○田中（横四方固め）村上（天理大）

● 2回戦

○日當（払巻込）木村（国武大）

● 3回戦

○日當（横四方固め）西村（龍谷高）

● 準決勝

○日當（払巻込）高峰（東海大附相模高）

● 決勝

○日當（払巻込）高峰（東海大附相模高）

● 1回戦 シード

○渡辺（大外刈り）桶口（秋田大）

● 2回戦

○渡辺（合わせ技）石松（仙台大）

● 3回戦

○海老沼（肩車）三原（道都大）

● 4回戦

○海老沼（有効）寺居（同大）

● 準決勝

○海老沼（技あり）永岡（福岡大）

◆ 第35回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9・21 埼玉県立武道館)

● 1回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注）上林山（東海大）②松元（近畿大）

● 3回戦

○寺居（小外刈り）吉村（東和大）

● 4回戦

○寺居（注意）篠崎（筑波大）

● 1回戦 シード

○寺居（注意）秋本（中大）

● 2回戦

○寺居（注意）古賀（福岡大）○

● 3回戦

○寺居（朽木倒し）小山田（日本体大）○

● 4回戦

○寺居（小外刈り）山浦（寺居）

● 1回戦

○寺居（総合勝ち）河中（栗原）

● 2回戦

○寺居（総合勝ち）山浦（寺居）

● 3回戦

○寺居（総合勝ち）河中（栗原）

● 4回戦

○寺居（総合勝ち）河中（栗原）

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）田島（福岡大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）田村（天理大）

● 3回戦

○寺居（合わせ技）工藤（国士大）

● 4回戦

○寺居（合わせ技）工藤（国士大）

● 1回戦

○寺居（合わせ技）鈴木（国士大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）鈴木（国士大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）鈴木（国士大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）鈴木（国士大）○

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）寺居（同大）

● 2回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）

● 3回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）

● 4回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）

◆ 第22回全日本学生柔道体重別選手権大会 (10・4～5 日本武道館)

● 1回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦 シード

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）田島（福岡大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 1回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）高峰（東海大）○

◆ 第5回全日本学生柔道体重別選手権大会 (11・2～3 尼崎市記念公園総合体育館)

● 1回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦 シード

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 2回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 3回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 4回戦

○寺居（注意）新井（山梨学大）○

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 1回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 1回戦 シード

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 2回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 3回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

● 4回戦

○寺居（合わせ技）寺居（同大）○

◆ 第29回講道館杯全日本柔道
体重別選手権

(11・16 千葉ボートアリーナ)

▽ 60 kg級

● 1回戦

○ 渡辺 (朽木倒し) 平岡 (筑波大) ○

▽ 66 kg級

● 順位 ① 德野 (神奈川県警) ② 江種 (警視庁) ③ 高橋 (桐蔭横浜大・佐々木 (了徳寺学園職)

● 1回戦

○ 寺居 (裏投げ) 幸田 (筑波大) ○

▽ 73 kg級

● 順位 ① 大内 (大内刈り) 篠崎 (筑波大) ○

● 1回戦

○ 寺居 (優勢勝ち) 吉田 (東海大) ○

● 3回戦

○ 寺居 (優勢負け) 三原 (天理高) ○

● 敗者復活戦 1回戦

○ 寺居 (大内刈り) 篠崎 (筑波大) ○

▽ 81 kg級

● 順位 ① 德野 (旭化成) ② 齐藤 (了徳寺学園職) ③ 篠崎 (筑波大) ○

● 1回戦

○ 河原 (小外刈り) 塙内 (旭化成) ○

▽ 89 kg級

● 敗者復活戦 1回戦

○ 河原 (腕ひしぎ十字固め) 鈴木 (東海大) ○

▽ 90 kg級

● 順位 ① 舟口 (東海大) ② 塙内 (旭化成) ③ 吉永 (国士大) + 中村 (旭化成) ○

● 1回戦

○ 河原 (小外掛け) 小野 (了徳寺学園職) ○

▽ 100 kg級

● 敗者復活戦 2回戦

○ 河原 (腕ひしぎ十字固め) 鈴木 (東海大) ○

▽ 110 kg級

● 順位 ① 古賀 (優勢負け) 田村 (天理大) ② 市ノ瀬 (平成管財) ○

● 1回戦

○ 古賀 (総合負け) 市ノ瀬 (平成管財) ○

▽ 120 kg級

● 敗者復活戦 1回戦

○ 古賀 (優勢負け) 田村 (天理大) ○

● 1回戦

○ 古賀 (総合負け) 江藤 (大阪刑務所) ○

● 2回戦

○ 渡辺 (小内刈り) 大東 (東海大附相模高) ○

● 3回戦

○ 渡辺 (朽木倒し) 高松 (筑波大) ○

部員名簿

4年
金谷 尚道 (商)
古賀 崇裕 (政経)
杉田 洋一 (商)
寺居 高志 (政経)
保立 勝 (法)
岩田 泉 (商)
井上 南 (商)
岡本 計 (政経)
河原 正太 (法)
河原 卓 (政経)
金本 伸雄 (文)
河原 優一 (政経)
河原 一貴 (政経)
河原 崇徳 (高)
河原 明大中野 (高)
河原 旭川大附 (高)
河原 世田谷学園 (高)
河原 埼玉谷学園 (高)

3年
金谷 尚道 (商)
古賀 崇裕 (政経)
杉田 洋一 (商)
寺居 高志 (政経)
保立 勝 (法)
岩田 泉 (商)
井上 南 (商)
岡本 計 (政経)
河原 正太 (法)
河原 卓 (政経)
金本 伸雄 (文)
河原 優一 (政経)
河原 一貴 (政経)
河原 崇徳 (高)
河原 明大中野 (高)
河原 旭川大附 (高)
河原 世田谷学園 (高)
河原 埼玉谷学園 (高)

2年
金谷 尚道 (商)
古賀 崇裕 (政経)
杉田 洋一 (商)
寺居 高志 (政経)
保立 勝 (法)
岩田 泉 (商)
井上 南 (商)
岡本 計 (政経)
河原 正太 (法)
河原 卓 (政経)
金本 伸雄 (文)
河原 優一 (政経)
河原 一貴 (政経)
河原 崇徳 (高)
河原 明大中野 (高)
河原 旭川大附 (高)
河原 世田谷学園 (高)
河原 埼玉谷学園 (高)

1年
島 元謙 (法)
島 聰 (法)
田中 浩二 (商)
田中 日當 (商)
田中 出永 (商)
田中 貢嗣 (政経)
田中 真樹 (政経)
田中 雄太 (政経)
濱島 翔太 (商)
濱島 堅野 (商)
鳴海 雄太 (政経)
鳴海 真樹 (政経)
大和 充 (商)
大和 雄太 (政経)
延岡 堅野 (商)
延岡 翔太 (商)
延岡 堅野 (商)
延岡 堅野 (商)



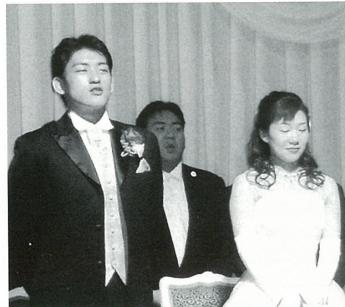


佐々木 伸也君
千江子さん
11月24日 ホテルニューオータニ



川口 一生君
さやかさん
11月30日 ホテルセンチュリー 21

祝 ご 結 婚



河原 龍秀君
量子さん
5月11日 ウェスティンナゴヤキャッスル



開 聖樹君
佐織さん
4月19日 東条会館



加藤 圭輔君
祐子さん
10月19日 秋田県大曲市
山の手ホテル



花岡 亮君
智子さん
8月3日 新門司アリーナ

駿台体育会親善ゴルフ大会

昭和五一年度 濱本義典

駿台体育会親善ゴルフ大会

競技方法:ペリア6 HDCP上限 男:36.00 女:36.00
打数制限:PAR×2 HDCP下限 男:0.00 女:0.00

順位	団体名	競技者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET	
優勝	バドミントン	290.0	*浅黄 達雄	50	50	100	28.8	71.2
		*西村 利稔	45	44	89	16.8	72.2	
		*本城 守男	50	52	102	28.8	73.2	
		*武藤 良治	46	49	95	21.6	73.4	
		折戸 誠治	56	50	106	31.2	74.8	
		桜井 基晴	47	41	88	12.0	76.0	
		吹田 修一	56	57	113	36.0	77.0	
		相沢 英成	51	48	99	21.6	77.4	
		鈴木 義昭	57	52	109	31.2	77.8	
		鈴木 峻三	47	55	102	21.6	80.4	
		岡野 俊樹	58	58	116	33.6	82.4	
		小瀬木洋一	53	54	107	24.0	83.0	
		金子質太郎	51	46	97	12.0	85.0	
		渡辺 潔	48	45	93	7.2	85.8	
		齐藤 正勝	62	53	115	28.8	86.2	
準優勝	柔道	290.4	*福田 二朗	40	43	83	12.0	71.0
		*岩戸 正美	47	46	93	21.6	71.4	
		*細川 隆夫	53	57	110	36.0	74.0	
		*菅谷 邦正	36	38	74	0.0	74.0	
		渡辺 昌照	48	47	95	16.8	78.2	
		田村 興靖	42	44	86	7.2	78.8	
		閑 勝治	50	46	96	9.6	86.4	
		浜本 義典	54	53	107	16.8	90.2	
3位	ラグビー	291.8	*麻生静四郎	50	51	101	33.6	67.4
		*三戸徳三郎	49	40	89	19.2	69.8	
		*星野 正史	49	46	95	19.2	75.8	
		*児玉 雅次	47	39	86	7.2	78.8	
		伊佐治孝幸	56	53	109	28.8	80.2	
		下川 里志	58	49	107	24.0	83.0	
		大和 兼二	62	55	117	33.6	83.4	
		千国 昭三	64	61	125	33.6	91.4	
4位	ワンゲル	292.8	*池上 勝彦	49	45	94	24.0	70.0
		*柴田 常夫	48	50	98	26.4	71.6	
		*田丸 善勝	43	39	82	7.2	74.8	
		*内田 吉成	43	43	86	9.6	76.4	
		足立 康弘	53	48	101	21.6	79.4	
5位	硬式野球	293.0	*国分 喬俊	41	38	79	12.0	67.0
		*落合 省三	44	46	90	19.2	70.8	
		*岩崎 直利	47	43	90	14.4	75.6	
		*高森 喜介	54	52	106	26.4	79.6	
		佐藤 政範	46	46	92	12.0	80.0	
		小林正三郎	46	44	90	9.6	80.4	
		別府 隆彦	59	47	106	24.0	82.0	
		中村 高是	59	60	119	36.0	83.0	

十一月十八日、昨日の風雨とは打って変わった穏やかな秋日和の中、恒例の駿台体育会親善ゴルフコンペが千葉県成田カントリー俱乐部で開催された。

この大会は明治大学の体育会OB会が一同に会し各部上位四人の合計スコアで団体優勝を競うという大会である。今回が二十九回目の伝統あるコンペ。体育会OB、腕に覚えの昔日の選手たちが覇を競つた。

わが柔道部は過去二、三年この大会にはご無沙汰していたが今年は駿台体育会の理事事を務める関幹事の肝いりで八名の優秀な柔道家ゴルファーを選抜。気合十分に優勝を狙つた。結果は○・四ストロークの差で惜しくもバドミントン部に栄冠を譲り準優勝に留まつた。しかし個人の部では一三〇名を越える参加者の中で栄えあるベスグロを菅谷邦正選手が獲得しその実力を他部に遺憾なく知らしめた。

コンペ終了後のパーティーでは明治大学長吉理事長の講評などもあり和氣藹々のうちにお互の健闘を称えあつた。来年のコンペではさらに若手を選抜し、今回成しなかつた團体優勝を目指したい。



明柔会事務局長 濱本義典

平素は明柔会の活動に皆様より多大のご支援を賜り、会報の紙面を借りて厚く御礼申し上げます。さて、幹事会などで討議されている内容などについて以下の通りご報告させていただきます。

一、 獎学金事業について

奖学金については、篤志会員の絶大なるご理解のもと会計上は順調に推移しております。しかしながら昨今の厳しい経済情勢の中で、寄せ付する方も頂く方も非常に苦しい立場にあるというのが現状であります。

去る二月四日に開催された幹事会には各地方支部の会長、代表者にもご出席いただきご意見を伺いました。奖学金につきましては若手の篤志会員の掘り起こしや賛助会員の募集など意見が交されました。また、明柔会奖学金の特典を受け卒業したOB諸氏に対し、寄付を募る方策も検討すべきとのご意見を頂きました。

明治大学当局は体育会の有望学生に対する奖学金制度を発足させ三年目になります。さらにこの制度が拡充されることを望みます。

いざれにしても、数々の先輩方が築いて来られた伝統にふさわしい明大柔道部実力を維持してゆくためには、確たる財政基盤が必要不可欠です。事務局といいたしましては、奖学金委員会杉原委員長、細川副委員長のもとさらに皆様のご理解を得られる



奨学金委員会より

奨学金委員会 委員長 杉原 構

平素は、明柔会奖学金事業に多くのご理解とご支援を頂き紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

今年の会報の刊行にあたり、十五年度の奨学金事業の中間報告と十四年度を振り返り所感を申し述べさせていただきます。

一、 ますもって感謝！

別表①の通り、十四年度は九州から八名の篤志よりご寄付いたいたいのを初め、全国の篤志会員より奖学金の趣旨にご賛同いただき九百万円を超えるご寄付を頂いた。お陰で貸与を含め十名の学生に奨学金を支給する事が出来た。

奖学金事業の意義を深く理解され多大のご支援を頂いた篤志会員各位にまず持つて感謝である。

道場の移転、新築、世界選手権での明柔選手の活躍など慶事が続々寄付金募集に多少出遅れの感があるが今後さらに奨学金委員会として努力したい。

繰り返しになるが変わらぬ篤志各位のご支援に感謝。過去



このご支援がなければ現在柔道界で活躍している明柔選手の多くは柔道着に違う大学の校章を付けていたかも分からぬ。

二、 若い芽に期待！

四月の総会においても、また十月に行われた地方支部代表者合同幹事会においても篤志会員に若手が少ない事が意見として聞こえた。このご意見はまさにその通りと思う。

奖学金委員会では、若手の（昭和五十年以降）篤志会員の掘り起こしに勤めている。

JRAのサラリーマンから格闘家に転身した小川直也君がこのたび寄付をしてくれた。彼の活躍は諸兄も目にしたり、耳にしたりした事があるだろう。彼は格闘家に転身も時々

よう微力を尽くす所存です。何卒皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

二、 百周年事業について

此案内の通り平成十七年に明大柔道部は創立百周年を迎えます。私学では早稲田、慶應に次ぐ歴史ですが実績ではこの二校をはるかに凌駕しているのは衆目の一致する所です。また学内では柔道部・端艇部・剣道部・相撲部が明治三八年創部で最も長い歴史を誇る体育部があります。

明柔会会報編集部では記念誌の編集作業に着手しており、写真などの資料集めに奔走しております。会員の皆さんのお手元に柔道部に関する資料や、珍しい写真などをございましたら是非本部編集部宛て送付下さい。また記念式典、祝賀会など企画いたします。日程などは未定ですが、十六年度早々には骨子を決定したいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

添付資料(一)平成十四年度篤志会員名簿
(二)平成十五年度篤志会員中間報告

新道場完成に際し以下の方々よりお祝いを頂戴致しました。
紙面を借りましてご報告申し上げるとともに、
厚く御礼申し上げます。

大阪明柔会 様	一〇〇、〇〇〇円
横山酒店 横山文雄様	一〇〇、〇〇〇円
三五年度 榎本 正様	二〇〇、〇〇〇円
四一年度 小川洋一様	二〇、〇〇〇円

明柔会事務局

奨学金委員会報告

14年度篤志会員名簿（卒年順）

氏名	金額	氏名	金額
京葉ガス(株)殿	60万円	s 37 栗原 英道氏	10万円
s 23 古賀 愛人氏	10万円	s 38 細川 隆夫氏	120万円
s 23 山崎 昌徳氏	10万円	s 38 平岡 康司氏	50万円
s 29 渡辺 欣嗣氏	20万円	s 38 岩戸 正美氏	36万円
s 29 渡辺 政雄氏	10万円	s 38 菅谷 邦正氏	10万円
s 31 高田 喜之氏	60万円	s 39 坂口 征二氏	36万円
s 31 波多江謙一氏	10万円	s 39 関 勝治氏	15万円
s 33 伊藤 彰朗氏	20万円	s 39 村井 正芳氏	12万円
s 33 小川登志雄氏	10万円	s 39 鳥海又五郎氏	10万円
s 33 福田 二朗氏	10万円	s 39 中野 雅博氏	10万円
s 33 小林 敏邦氏	10万円	s 41 佐々木充行氏	36万円
s 34 谷藤 義明氏	10万円	s 42 湯浅 政一氏	10万円
s 34 関口 耕二氏	10万円	s 44 宮崎 照満氏	10万円
s 36 高田誠之助氏	20万円	s 45 国安 教善氏	20万円
s 36 佐々木義宣氏	10万円	s 46 岩田 久和氏	10万円
s 36 畠田 道夫氏	10万円	s 48 吉永 浩二氏	10万円
s 37 杉原 構氏	120万円	s 53 桜田 裕氏	10万円
s 37 小田 秀明氏	36万円	s 53 山内 鉄生氏	10万円
s 37 石本 義明氏	20万円	s 57 吉田 尚生氏	10万円
s 37 城州司郎氏	10万円	s 57 藤本 一博氏	30万円
s 37 田村 興靖氏	10万円	s 58 千葉 宏之氏	20万円
s 37 朝田 紀明氏	10万円		

小計 ￥9,810,000 (15年3月31日現在)

明治の道場を訪れ後輩に稽古をつけている。新道場が完成の運びとなり、現場指導陣からの要望に答える彼の寄付金で製氷機をプレゼントする事となった。現代のスポーツ界ではアイシングの知識、技術が進み、怪我の治療、疲労の回復などに有効な手段として広く用いられている。このような設備を道場に持つ事は甚だ有意義である。

小川君の他に五九年度の櫻田君、山内君、五九年度の藤本君、千葉君、吉田尚生君など徐々に若い芽は育ちつつある。前監督吉田君にも頑張ってもらいたい。彼ら若手が明柔会の新しい力をまとめ財政の面にも関心を持つてくれれば、明柔会はさらに盤石のものとなる。

今後に期待したい。

三、奨学金事業の将来

昨今の厳しい経済環境の中、篤志会員の净资产に頼るだけの奨学金事業は早晚行き詰まるだろう。現状、寄付を出す方も頂く役目のほうも心苦しいというのが本音である。

幹事会でも意見が出た通り、広く会員の理解を求めさらに寄付を募る事も必要だろう。また、明柔会奨学金制度の適用を受け卒業したOBの協力を仰ぐ事も必要だろう。

本来奨学金は、明治大学柔道部に入學を希望し、実力有望でなおかつ家庭的・財政的に恵まれない者に対しその事情を考慮して幹事会の承認のもと給付させられる物である。全てとは言わないが、現在では、有望高校生のスカウトの際他大

学との競争に負けない為の条件の側面もある。

明治の実力を維持し、多くの先輩が培ってきた伝統を守るためにいたし方のない事かも知れない。忸怩たる思いだ。ただ明治は勝たなければという思いはOB一人一人共通だろう。

大学当局では、体育会の学生に対し一定の条件をクリアすれば奨学金を支給する制度を2年前から発足させた。大学の広告塔としての体育会の役割を認識し始めたところと見受けられる。但し支給される人数は体育会全体(四一部)で五十名に満たない。

この制度がさらに拡充されれば明柔会の財政は随分と助かる事になる。

いずれにしても今後数年の間に昭和五十年代、六十年代そして平成のOBをさらに啓発し世代交代の実を上げて行きた

い。これからも明柔百年を見据えて……



15年度篤志会員寄付金中間報告

(卒年順)

氏 名		金 額
s 29	渡辺 政雄 氏	10万円
s 30	故 松岡 義隆 氏	50万円
s 33	福田 二朗 氏	10万円
s 34	谷藤 義明 氏	10万円
s 37	杉原 構 氏	120万円
s 37	栗原 英道 氏	10万円
s 37	城州 司郎 氏	10万円
s 39	関 勝治 氏	15万円
s 39	村井 正芳 氏	12万円
s 42	湯浅 政一 氏	5万円
s 45	國安 教善 氏	20万円
s 53	佐藤 英彦 氏	5万円
h 1	小川 直也 氏	100万円

(15年11月25日現在)

追悼 斎藤峰章君

朝飛 大

「朝飛、元気か？」おれは元気になつたぞ」

斎藤君からの電話だった。声にも力がありとてもうれしそうだった。臍帯血に成功したからもう大丈夫だ、遊びに来いという電話だった。次の日病院に、お見舞いに出了かけた。そこにいた彼は痩せ細り顔はまつ黒で髪の毛がなかつた。私の驚く顔を見て「心配するなこれから生えてくるんだ！」と明るく微笑んだ。

数年前彼から「おれ白血病になつた」と突然電話をもらつた事があった。目の前がまつ暗になり返す言葉もなかつた。しかし彼は「慢性のものだから今すぐ命が危ないわけではないから」と明るく話していた。それから会うたびに細くなる彼を見ていて、どうにか回復してほしいと願っていた矢先の今回の電話であった。私も心から喜んだ。

彼との出会いは中一の春、明大中野中学の入学式の時。中

一すでに100kg近い彼は特に目立つていた。体も大きいが顔も迫力があった。しかしその風貌からは思いもよらない優しい性格をしていた。私は「柔道部に入らないか?」と彼を説きつた。彼は相撲部か柔道部か迷つたあげく柔道部に入部して來た。それから大学卒業まで毎日彼と汗を流した。彼は

その優しい性格から先輩からも後輩からも大人気があつた。人がこまつていると助けてあげようと思死になり、私もいく度となく助けられ、彼のファンになつていつた。
平成十五年七月
私の携帯にいやな連絡がはいる。「彼の調子がよくない」と同級生からである。あわててお見舞いに出かけた。そこにはベッドの上で動けなくなつた彼がいた。「大丈夫だ!今を乗り越えれば、又よくなれるから」と彼は言った。「疲れるからイスにすわれ」とか「お茶を飲んでくれ」とか、こんな時でさえ人の心配ばかりしていった。余命一ヶ月、臍帯血は成功ではなかつた。数カ月前あんなに喜んでいたのに……

平成十五年九月



峰 章君(右)と私

斎藤君『力尽きる』

私は彼に助けてもらう事は多かつたが、何も協力できなかつた。彼は自分を犠牲にしてみんなの心を癒しつづけた。あの笑顔は見られないが、この優しさは今後の私の人生にとつて教えとなり、又励ましになる。これからはゆっくり休んでくれ、永い間の友情に感謝し、ご冥福を祈る。



私の好きなものは
この街にあります。

住宅ローンサービス株式会社
代表取締役 杉原構
東京都新宿区西新宿6-12-7
〒160-0023 ストークビル609
TEL(03)3343-7000 FAX(03)3343-7700

訃報 (平成十四年十二月より十五年十二月まで)

上記期間に事務局に寄せられました訃報をお知らせいたします。

14年12月14日	37年度卒	前田拓雄様	ご本人
14年12月22日	32年度卒	宇野茂夫様	ご本人
15年1月	44年度卒	小林欣吾氏	ご母堂様
15年1月	37年度卒	城 州司氏	坂本正氏
			ご母堂様
15年4月6日	30年度卒	松岡義隆氏	ご本人
15年4月30日	36年度卒	堺崎英一氏	ご本人
15年6月14日	51年度卒	加瀬次郎様	ご尊父
15年7月	60年度卒	渡辺 聰様	ご母堂様
15年9月	59年度卒	斎藤峰章様	ご本人
15年11月	53年度卒	谷口 淳様	奥様
15年11月	33年度卒	浜野生哉様	ご本人
15年12月12日	44年度卒	姿 信夫様	ご母堂様
			(故姿 節夫師範 奥様)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

21世紀へ向って…
躍進する京葉ガス。




京葉ガス

生産部市川工場 本社 平272 市川市市川南2丁目8-8 電0473(25)1121 (大代)

姿節雄先生を偲ぶ

栗原英道

一、序章

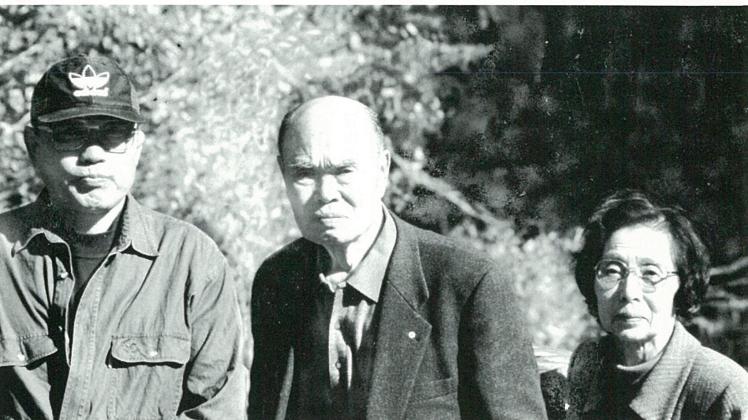
人生には、数多くの“出会い”がある。人それぞれの人生ではあるが、その人生、恩を受け、恩を知るに越す幸せはない。しかし良い恩を授かることはまことに稀で、よい恩人にめぐりあうことは更に更に稀な、まさに天の恵みであろう。縁あって姿節雄先生をいただいた私達は千載の幸せ者であり、この幸せは先生の死によつて消えるはずもない。

明治大学入学以来四十余年、ご薫陶を賜つたこの歳月の間に、生涯の楽しい出に恵まれ多くの知友と結ばれた。その人々の集まり心の繋がりの上に、先生はいつまでも大きき生きていて下さることだろう。

先生の業績や人格を小ぎれいで申し述べる非礼はない。いま脳裏を走馬灯のように過る風景の幾つかを記して生前を偲び、謹んで感謝とお礼の心を捧げたい。

二、故郷

広島県福山市から国道一八二号線を北上すること約六十キロ、比婆道後帝釈国定公園に至る。



筆者

先生

奥様

吉備高原のカルスト台地を貫いて流れる帝釈川沿い一帯は「帝釈峡」と呼ばれる景勝地で、北宋山水画の名手「李成」(郭熙)もさぞかしと思われる絶景が連なる。

先生はこの名勝に近い「神石郡神石町古川」で一九一五年(大正五)五月十五日誕生された。

一九三〇年(昭和五)広島県立府中中学校入学、庭球部に入部(後述)。

同年三船十段門下、松井象三郎五段が柔道教師として着任、柔道部が創設され転部。先生の生涯にわたる柔道修行がはじまった。

松井五段は、同年代の小説家井伏鱒二と同じ、福山市加茂町出身。

書の達人にして、同僚教員や教え子から絶大の信頼と尊敬を寄せられた人格者であったといふ。

先生は松井五段に対し、終生「恩人」として格別の敬意を払われ、しばしば回顧されてゐた。

「広島県立府中高等学校八十周年記念誌」には当時の状況が次の如くある。

「……松井先生の指導の下、……八回生の姿節雄……らが

入部し、県下に府中中学柔道部の名をあげた。とりわけ姿は、広い肩幅、しつかりとした足腰と腕の力が強く、ばく抜けた体格であった。黙々と練習に励み、しだいに腕をあげ五年生の時、一段に昇段した。当時、県下の中学生で二段の腕前の者は二人しかおらず、その一角を占めていた。県大会はもとより近県大会でも無敵の強さであった。卒業の時、松井先生が恩師三船十段に姿の将来を頼み門下にいたれた。その後、ますます才能を發揮して……。松井先生は一九三四(昭和九)三月、中耳炎が悪化し、手術後まもなく亡くなられた。門弟、生徒や同僚教員が病室いっぱいになるまで駆けつけ、手を持ち、足にすがって励ました。当時の柔道部員たちは、その後も先生の墓掃除をしており、門弟、生徒の心の中に生きている。……」

先生が少年時代の五年間を過ごされた旧制府中中学(後の府中高校)は、JR福山駅から福塩線で四十分の広島県府中市にある。

蛇足ながら、明柔会名簿搭載者の中、故橋高良美(昭一二年度、故隱居忠夫(昭二五年度)、佐藤誠三(昭四二年度)、それに小生の四名も、後にここで学んだ。

それの府中市は、町を貫くように南に流れれる芦田川の水運を利用した物産の集散地として古くから栄えた。一六三九年(寛永十六)、備後福山藩の「木綿運上所」が設置されたように、近郷では早くから織作とその加工が盛んで、明治時代以後は備後絣の产地として知られるようになつた。

府中から福山に至る約二十キロの旧芦田川の岸辺には、常夜灯とて船の安全航行の役目を担つた御影石の豪華な灯籠が今も数多く点在し、往時の繁栄振りをしのばせる。

「府中味噌」に「府中象」、「工作機械」に「衣料品」、勤勉な働き者が多い府中市は、時代の波を懸命に捕らえつつ着実に発展してきたし今後もするに違いない。

しかし我が府中高校は、残念ながら姿先生は以後全国区の人物を未だ輩出していない。

三、旅

最小必要限の着替えと洗面用具の入ったショルダーバック、愛用のカメラ、背広の上にはスリーシーズンOKの薄手のコート、これは今は懐かしく思い出される先生の旅行スタイルである。

先生は知る人ぞ知る「旅の達人」であった。

小学生も学生時代から先生の晩年まで、幾度か旅のお供をさせていただいた。

先生は初めてではないかと思われる土地を訪問されても、その土地に関する知識が実に豊富だった。

小学生も学生時代から先生の晩年まで、幾度か旅のお供をさせていた。

先生は初めてではないかと思われる土地を訪問されても、その土地に関する知識が実に豊富だった。

「若い頃、白井さん（三船門下の兄弟、九段、故人）と二人、

「若い頃、白井さん（三船門下の兄弟、九段、故人）と二人、

先生この時四四歳、会場には顔面を紅潮させ、瞬きもせず、狹犬のように腕を突つ張つて、二十年振りに帰つて来た自慢の「友」を、食い入るように見つめる旧友等の一団もあった。神式で始まつたプログラムは、厳肅かつ快調なテンポで進行した。

最後は「取り」が先生、「受け」は畠田先輩による「投げ裏の型」、鄙では見れない名人技に、会場は吐息して盛んな拍手の中で修了となつた。

夕刻、場所を移して「昇段の祝い」の宴、予定の行事は滞りなくすべて修了、翌日より二日間、楽しみにされていた「社会探訪」が始まつた。

行き先は「尾道」「因島」案内役は因島在住の「平木豊氏」（故人）、只者ではない。

府中中学では先生より一級上で、新入生の姿少年を、庭球部に誇り入れた男である。

先生の親友とはこの時まで知らなかつた。

二人のあいだにどんな会話があつたのだろうか。

氏は日立造船因島工場に勤務し、柔道部を率いて県下各種の大会に熱心に参加されるで、早くから顔は存じていたが、

先生の親友とはこの時まで知らなかつた。

誠実、寡黙、名前を追わず、「人に尽くすことが喜び」の人。

柄で、晩年は府中高校同窓会尾道三原地区の名誉会長であった。

最初の訪問地は尾道、北が山、南が海、山裾がそのまま海に落ち込んだような地形で、平野部は殆ど無く、山の斜面に家並みが連なる港町である。

三船先生のお供をして、満州（現在の中国東北部）へ行った時のこと、柔道指導の旅とはいいうものの、四六時中稽古がある訳ではないし、時間を持て余したことがあつた。それ以来どんな旅でも、初めて行く「ところ」の事は、出来るだけ調べたり聞いたりしておいて、時間ががあればその現場に出掛けるようにした。それ以来退屈することもなくなつて、むしろ旅する事が樂しみになつた」と。

先生との旅の思い出を少々。

一九六〇年（昭和三五）十月、先生の恩師「松井象三郎」一段を偲ぶ会」と、先生の「八段昇段のお祝い」が、先述の旧制中学と大学を通じての後輩、「橋高」「隠居」両大人の肝煎りで、故郷広島県府中市で開催された。

東京からのお供は畠田先輩（昭三六年度）と小生二人。先生は戦後復員してしばらくこの町に滞在された。

しかし、心ある先輩友人から「姿よ、君のこれから的人生の舞台としては、広島府中は狭すぎる。東京だ、東京へ行け！」と強く勧められ、再度の上京を決意されたと聞いている。

以来二十年振りの帰郷、そして恩師への追憶、自身への祝い、心の紺深い先輩友人と久しう振りの再会等々、この時の先生の胸中如何ばかりであつたろうか。

「偲ぶ会」の当日は快晴、日曜日にもかかわらず、在校生、卒業生、校長と言われたM先生、それに町のお歴々等で会場の母校講堂は満員になつた。

南の「向島」との間、「尾道水道」と呼ばれる海峡は天然の良港で、古来より瀬戸内海交通の要衝として栄えた。

特に江戸時代、北前船西廻り航路が開拓されてから繁榮は更に一層のものとなつて、物産と共に公家や武士、文人墨客の往来も頻繁であった。

往事「浜旦那」と呼ばれた豪商が海岸に軒を並べたこの町には、珍客や賓客を受け入れるだけの文化と教養、大火や焼き打ち等の危機に対処する才覚と度胸、それに財力が豊かにあつた。今もその頃が偲ばれる史跡文化財が、大切にされながら数多く残っている。

先生は市内に友人K氏を尋ねて旧交を温められた後、「淨土寺」に向かわれた。

この寺は淨土寺山の中腹にあつて、推古天皇期六一六年聖

徳太子によつて創建されたと伝わる真言宗の名刹である。眼科に尾道水道、七重八重に島々が波のように重なる芸予諸島の先には、四国石龜通峰が聳える。

門前には幕末の文政年間、剣の新陰流一門寄進の丈余の石碑が建つ。

碑文は「老子」の「柔能制剛弱能制強」、賴山龍筆。

朱塗りの山門を潜つて入る境内は、これも朱塗りの本堂、多宝塔（いずれも國宝）があつて、華やかな雰囲気に溢れてゐる。寺紋の二引両は、足利尊氏とその一門の家紋と同じで縁は深い。

一三三六年二月、京都に敗れた尊氏は九州に逃れ、再拝の

途上、尾道に寄港したのは同年五月五日の昼だったそうだ。

以下、吉川英治著「私本太平記」を少し引用する。

「——男の節句」と尊氏は知っていた。

「酒酌もう。重五の祝いだ。土地の美酒を酌みながらさい

ごの軍議をとげようぞ」おもなる大将をみなつれて、尾道の山ぞいの町からすぐ上の淨土寺へ休憩に入った。

淨土寺の僧、道謙は、

「これはまた……」

と俄然申し入れにうろたえはしたが、しかし寺をあげて、尊氏や直義以下のために、客殿を挙げ、この不時の珍客たちの憩いに供えた。

「住持は道謙と申さるるか」

直義があいさつを受け、また、こう言つた、 「——当初は古くから備後酒の名のあるところ、万葉にも吉備酒の歌さえみゆるの」

「は、御意……」

尊氏は觀音信仰すこぶる驚かつたという。

参籠して淨土寺の本尊、觀世音菩薩に戦勝を祈願し、弟直義や幕僚等と共に觀音經の偈を詠題として和歌三三首を奉納した。

今も淨土寺宝物館に残っている。

湊川決戦は五月二五日、勝負は一戦で決し尊氏は羣衆となつた。

柔道との縁もある。

山門を出て南西すぐ下にある二十坪程の空き地、淨土寺末

寺跡には、講道館柔道草創期の人、西郷四郎逝去之地である。

先生の今回の尾道訪問の主目的はこれだった。

この前の前年、備後柔道連盟有志により、石碑が建立された。六尺余の石碑、表は「西郷四郎逝去之地」裏には嘉納師範からの追贈六段の証書にある。「……其ノ得意ノ技ニ於イテハ幾萬ノ門下未ダ其ノ右ニ出タルモノナシ不幸病ニ罹リ他

界セリト聞ク……」の愛惜の情溢れる一文が刻まれていた。

西郷は病(リユーマチ?)を得て後、温暖で風光明媚なこの地を選んで療養にとめた。

天気の良い日は縁側に出て、眼下に拡がる入船出船の尾道水道、東京のある東の方を、日なが眺めていたという尾道水

道東の方を、暫く見やつておられたが、突然「西郷さぞかし……」と陔かれて絶句された。

敷地下の小径に控えていた小生が思わず振り仰ぐと、やわらかな秋の日差しの中、あの大きな先生の目にキラリと光るものを見て、視線のやり場にちょっと慌ててしまった。

先生は石碑の側に佇んで、西郷が眺めていたという尾道水道東の方を、暫く見やつておられたが、突然「西郷さぞかし……」と陔かれて絶句された。

敷地下の小径に控えていた小生が思わず振り仰ぐと、やわらかな秋の日差しの中、あの大きな先生の目にキラリと光るものを見て、視線のやり場にちょっと慌ててしまった。

その夜は因島の平木氏宅泊。

なぜか心に残った風景だった。

柔道に関して他人の技量を云々されない先生が珍しくY氏のことを「強かつた」と述懐されたのも意外だった。

ずつとあとのこと、府中高校(含む旧制府中中学)卒業生名簿が作られたその中に、Y氏の名前がないことに気付いて、

ある時それとなく先生に申し上げた。

先生は遠くを見やる眼差しで話された。

「Yは友との信義を大切にする男だった。ある時Yの友人達数人がなにかをしてから後、なぜかYがその責任を一身に背負い、俺達柔道部仲間の説得も聞かず、自ら退学転校して行つた。だから無いのよ」と。

この時小生、三十数年前の先生とY氏との再会の時を思い出し、なんとなく納得した気分になつたのだ。

先生とY氏との会話は僅かであった。

同行の平木氏に促されて、晴れ晴れとした笑顔で別離の後

工場見学、昼食、午後は案内されるまま近所の因島公園に向かわれた。

丘の上の公園からは、眼下右に生名港、左に日立造船の工場

群、正面は急潮の長崎瀬戸を挟んで生名島、その肩越しの島々の果てになどらかな稜線の中国山地が望める。

この頃、週刊誌に連載され、たちまちベストセラーとなつた小説「悪魔」があった。

文中二度、この因島が登場する。

偶然にも二人は、熱烈な愛読者であつたようで、一気に「悪

この因島は、南北朝時代から豊臣秀吉の「海賊禁止令」布告までの間、芸予諸島中三つの島に蟠據した「村上水軍」のうち、「因島村上氏」が本拠地とした島である。

また先生の趣味だった開拓の世界で、幕末の頃の公式戦「お城碁」で不敗を誇り、後に「碁聖」と呼ばれた本因坊秀策の出身地でもある。

明治時代中期、造船会社が設立されて以来、造船はこの島の基幹産業として、幾多の変遷を経つ発展してきた。

先生が訪島された昭和三十年代は、空前の輸出船ブームで、日立グループは大型タンカーの建造を因島工場に集中しており、活況の極にあった。

翌日は雲一つない快晴、朝食後旧友Y氏を訪ねて、日立造船因島工場に向かわれた。

Y氏は府中中学校時代柔道部で共に稽古に励んだ仲間だったので、ことだった。

Y氏この時「設計室主任技師」まさに時代の先端をゆく花形産業の核の存在である。

応接室で待つ程もなく現れたのは、先生と同じくらいの偉丈夫であった。

入室するなり「お一つ姿!」「いや、どうも」、立つたまま両手ガッチリ握り合い顔見合させて暫く無言、ソファに座してもまた無言、両者顔紅潮しY氏の目は潤んでさえいた。

青春の一時期を共にした二人の男が久しぶりの再会に、これほど感動する共通の「思い」は何か小生知る由もないが、

名一話に花が咲いた。

あらすじは省略するが、円熟期の作者、河内の国天台院住職今東光和尚の筆は冴えに冴えて小気味よい。

平木氏によると、小説に出てくる女親分「麻生イト」は同名の実在モデルがいたそうだ。

男仕立て結城紬の筒袖の帶、でっぷり肥った色白の女親分は、チックで分けたサンギリ頭を光らせ、お婆さん二人を従えて悠然と島内を闊歩していたという。子供達から「おじちゃん」と呼ばれると大層な満悦で、時には小遣い錢をも与えたそうだ。

接続詞なしで訥々語る平木氏の口調は臨場感に溢れ、聞かれる先生の表情に昨日の憂いは微塵もない。

珍しく多く争う二人の笑い声が、こよなく晴れた瀬戸の秋天に弾け跳んでいた。

四、図書

古い話で恐縮だが学生時代、先生の「姿察」でお世話になつてたころ、洗濯は手洗いだった。土曜と日曜は競馬アルバイトがあるため、週半ば水曜の午前中、科目の履修を控えてこれに当たった。

トレーニング、朝食、寮内外の掃除の後自分の洗濯に取り掛かり修了は何時も十時前後だった。

先生の休日も水曜で、時々この時刻に寮へお見えになった。

綺麗好きの先生は縁側に腰掛け掃除の終わつた庭を眺め

となつた。

故郷広島から取り寄せた秋の味覚で一杯飲つたあと一局、翌日となる。

先生の朝は早い。

いつも五時には洗面を終えて碁盤に向かい端座されている。小学生も急ぎ支度して戦闘開始、一局終えて朝食後もう一局、それから試合会場へお供するのがいつものパターンで、このことは、団体学生大会の会場が東京に移るまで続いた。

先生の還暦のお祝いに、姿察OB有志一同は日向産榧碁盤他式を贈つた。

一周忌法要の時、久しぶりに拝見した。

「この碁盤は根っここの部分からとりました。少し固いかも

しませんが、時間が経てばよい艶が出ますよ」四半世紀を経て、日向延岡の碁盤屋の言葉通り、花梨の碁笥との色釣り合いも素晴らしいなつて、ひとつそりと仏間に置かれていた。

五、釣り

先生が地方に出掛けられた時、楽しみにされていた事の一つに「釣り」があつた。

先生の釣りは大物狙いの船釣りが主で、釣行前夜は釣り天狗の自慢話に付き合つたりされて実際に楽しそうに過ごされるのが常だった。

熊本八代の故松岡先輩、広島福山の立花先輩が試合や合宿

ながら、「サボリ」の連中も含めて寮にいる者達と会話をされるのが常だった。

寮にはどんな経験を辿つたのか定かではないが、手垢にまみれた恐ろしく汚い碁盤と碁石があった。

は星打ち四線ボウシにケイマの正統派で後半戦に強かった。

勝ち負けはほぼ互角、先生の堅陣に食らいついてゴリゴリ頑からだつた。

この頃の生徒は実利先行寄らば斬るぞ喧嘩無類派、先生は星打ち四線ボウシにケイマの正統派で後半戦に強かった。

勝ち負けはほぼ互角、先生の堅陣に食らいついてゴリゴリ攻めて例の「チャー！」という叫びを聞けばしめたもの、反対に、仕掛けた喧嘩を巧みにかわされて、ゴソソリ御用にされた上、ニッコリ笑顔の先生の口から低くよく通る声で虎造の「石松閣魔堂の最後」が出る頃には、碁盤ひっくりかえしで逃げだしなくなるほど悔しい思いをしたことでも懐かしい。

この対戦は卒業まで続いた。

社会人となつて入つた旭成成独立寮に、工場病院の医師で、学生本因坊のタイトルを取つたことのある「ツワモノ」がいた。気さくで、時間が許せば寮生の誰とでも相手になつてくられた。その人柄に甘えて、二年足らずの間、しっかりとめり込んで以後、何とか品良く打てるようになったのは幸運だつた。

昭和六十年、大阪に家持つてから、先生との対戦が再開した。我々夫婦の媒酌人である先生に、秋の学生大会で来阪された時、我が家に一泊していただきことをお願いして恒例

の後などに釣行を計画して先生をご案内された。

両先輩にはその都度声掛けいただき、数多く同行させていただいた。

小生自身も、長かつた九州地区勤務の間、先生が宮崎方面にお越しの際は計画してお供した。

宮崎県日向灘での釣りは「敵しさ」と「楽しさ」が同居している。

黒潮流れる宮崎県北部から大分南部一帯沿岸は、阿蘇山系に連なるリアス式海岸で、海中の凹凸激しい岩礁地帯には、テーブル珊瑚の群生地もあって甲殻類や魚類の格好の住処となつてゐるといふ。

欠点は外洋ゆえに台風の余波「ウツネリ」等の影響を受け易いこと、台風が多發する夏から秋の季節、その傾向は顕著となる。

某夏、旭化成延岡での合宿の後、先生を釣行にお誘いした。當時茨城工場勤務だった若崎先輩に連絡すると、はるばる勇躍参加され、同行三人。

宿は五ヶ瀬河畔で入社以来三十年付き合つた友の営む割烹旅館、船は小生の釣りの師匠の兄弟分で、好人物日船頭の「愛運丸」でした。

この船いつも乗り合いの釣り船であるが、客の無い時は貨物運搬に転用されるため、団体は少しだきめである。時々船酔いされる先生の負担を少しでも軽くしたい目的もあった。

当日は貸し切りで早朝四時出港、ポイントに至るまでの暫しの時間、船頭との会話は『釣り好き』にはこたえられない

一時だ。
船頭は、いつもと違つて改まつた言動の岩崎、栗原を訝つて聞いてきた。

「一緒に来た人、誰な?」

「柔道の先生で二人の恩人だ」

この一言で船頭はすっかり緊張してしまつた。
やがてポイントに到着、慎重に『山立て』水深三五メートル、いつものように船頭に協力、三本鋪して釣り開始。

ぱつり、ぱつり、ビール瓶程もある良型のイサキに混じつてメジナ、モンダイ、マダイが釣れ続いた。

海上少しウネリがあつたが、魚が釣れている時に船酔いする釣り人はほとんどいない。

船酔いの苦しさは経験した者のみが知るところだが、その苦しさも陸に上がるときに雲散霧消する。

正午前潮止まりとなつて、当たりがピタリと途絶えた後、事件はおきた。

先生が胴の間にゴロリと横たわられた。

船酔いである。

小生もう釣りどころではない。

あるだけのタオルをクーラーの水で冷やし、陽よけのバスタオルと共に急いで運ぶ。

「俺は大丈夫だから構うな」と言われたが、船酔いの苦しさ

のするような笑顔になつて一言呟かれた。

「危く自干しになるところだつた」と。

楽しみの釣りの邪魔にしないようにと、苦しい船酔いを我慢された先生の優しい心根を垣間見た思いがして、良き師匠に巡り会えた幸せを、改めてしみじみと感じたものだった。

川面に鮎漁の灯が映え、満天ふるような星空の南国延岡、某夏の夜のことだった。

六、終章

平成九年秋、先生は生家を継がれた実弟の病気見舞いに、奥様を伴つて帰郷された。

見舞いの翌々日、福山の立花先輩の案内で、ご夫妻は徳島の秘境「祖谷渓谷」を訪ねて、かずら橋や平家落人末裔屋敷等をご覧になつた。

その翌日は、笠岡諸島の白石島で鯛釣りを楽しめた。

この時も小生、先輩に声かけていただいてお供をすることができた。

釣りの夜、漁の獲物で乾杯の後、鳥鷺の決戦も一勝一敗で終わつた。

これが先生との最後の「旅」「釣り」「開碁」となつた。

「一目の羅は、以て鳥を得べからず」

(羅は鳥を捕る網、一つの目しかない網で鳥は捕れない。

を知っている小生は気がきではない。

船頭の気配りも大層なもので、炎天下三本鋪の上げ下げに替わりしてくめたが結果は芳しくない。
岩崎先輩はと見ると、お客様になりきつて、細い目を光らして指先の釣り糸に神経集中しておられるが、釣果は一向に持らない。

さらばと船頭、少しでも日陰をと、荷物運搬時に使う潮雨避け用の帆布を張つてくれたが、通気性ゼロのため、先生に多量の発汗を促すところとなり、まったくの逆効果であった。

氷が切れたのを期に納竿帰港、緊張と気遣いから開放され、ホッとしたのか船頭の顔に笑みがこぼれる。

急ぎ旅館に帰ると、店主自ら「ヨイシヨ!」と大ジョッキでビール数杯部屋に運んでくれた。

水分補給完了、当日の獲物全てを彼に託し、入浴して待つ程もなく出された料理は、獲物の他に、先生と先輩の好きな甲殻類がドッカン!と盛られて豪華版だった。

夕食後はいちものように鳥鷺の決戦、途中隣で白河夜船の岩崎先輩が発するリズムに乗らないけたましい大鼾に、窓下五ヶ瀬川堤防を散歩する犬が激しく吠えたのには先生も驚かれていた。

決戦は一勝一敗の引き分け、宿の人が床とるあいだ、先生は窓辺の籐椅子に腰掛け、敷居枕に相変わらず大鼾の先輩の寝顔を睨むよう見下ろしておられたが、やがてカラリと音

多くの目がないとだめだ。多くの人が協力しないと、大きな目標は達成できない)

天台宗の開祖最澄が、弟子を教育する際に、好んで使つた言葉だそうだ。
その最澄は天台の奥義の一端を次の如く開陳している。

「經寸十枚、是國の宝に非ず
一隅照らす、是れ則ち國の宝なり」

これら先賢の遺訓に接する時、名聲や榮達に見向きもせず、一修業者としての「道」を全うされる一方で、明治大学柔道部百年の歴史に満足することなく、更に発展昇華せしめる為に、その志を持つ者の育成と團結に、渾身の努力を傾注された先生の生涯に思ひは巡る。

四十余年にわたり、或る時は遠くから、或る時は近くから、先生の「生き方」を拝見させて戴いた幸せに、感謝お礼申しあげるとともに、先生の生涯を支え尽くされた奥様とご家族のご健勝とご多幸を心より祈念する昨今であります。

合掌

平成十五年十月

オーケニジヤバン株

三七年度



編集後記

平成十五年秋、吾が愛する小川町道場
がその使命を終えました。昭和三一年の夏休み明け、当時の部員たちは地下の道場から畠をかけて新校舎の長い階段をよじ登つたものです。年月の経つのは早いもので、あの頃界隈でいちばん新しいビルだった小川町校舎も今は最も古いものになつてしましました。

いま、駿河台の各校舎は大学本館が、摩天楼かと見まがうばかりのリバティタワーと稱する高層ビルに変身した他、最後まで残っていた白い塔の大学院も取り壊され、跡地に建設中の二十階建のビルは校舎とは思えない美観を呈しています。すでに駿河台校舎に昔の面影はなく、少なくとも三十年代の卒業生にとっては當時学んだ校舎が一つもありません。

大学の周辺も大きく様わりましたが、校舎の間の坂の上にある山の上ホテルだけは昔の姿で営業しています。さて、新道場はこの山の上ホテルに隣接している1号館校舎の最上階、五階に設置されました。（五階といつても小川町校舎と違つてエレベーターがついています、入口がすでに三階です。）道場移転の経緯については本文の処々述べられていますが、計画が具体化してからの中話を見つけて見ます。

道場新設にあたつて、大学施設課より提示された当初の設計案は失礼ない方をすれば、吾々にとっては真にお粗末なものでありました。すなわち三階のフロアの約半分を使つて、一〇〇畳程度で、風呂も

他部との共用というものであったのです。吾々としては、これでは困る、これでは小川町に居た方がよい等と施設課とやり合つたのですが相手も他の部とのバランスもあるので等々、動く気配を見せませんでした。しかし、結果的には百瀬部長の御尽力と吾々と施設課の間に立つた体育課の柔道部に対する認識が事態を好転させました。五階の全フロアが道場と道場の付帯設備となり、吾々が要請していない冷暖房まで付くなどいう豪華版となつたのです。

待ちに待つた道場移転の日が来ました。作業の手順として先ず神棚を、次いで、歴代OBの名札を移動しました。この作業はOBの指導で行いましたが、担当の部員たちのつにない康々として仕事ぶりが印象的でした。伝統の“オーラ”を感じたというところでしょうか。ともあれ、新時代の部員諸君はこの一一〇〇余名の先輩たちが見守る下で新しい伝統を築いてくれるに違いありません。せん、期待しましよう。

総合解体業

株式会社
村上工業

代表取締役 村上公明

〒272-0004

千葉県市川市原木2393-3
電話 047(328)0979(代)
FAX 047(328)0982

企画力、技術の生かされた印刷

- PR関係美術印刷
- 事務用印刷・ビジネスフォーム印刷
- 出版関係印刷
- ポリエチレン・ポリプロピレン各種印刷
- 製袋・加工、各種加工成型、シール印刷加工



有限公司 渡辺欣勝堂
代表取締役 渡辺欣嗣

神田営業所 101 東京都千代田区神田三崎町2丁目21番10号
渡辺ビル4F 電話 (03) 3262-4635(代)
本社工場 115 東京都北区浮間3丁目5番28号
電話 (03) 3967-9317(代)

タオル製品専門商社

四国商事株式会社

〒165 中野区新井1-15-12
TEL. 03 (3386) 5664(代)
FAX. 03 (3386) 7619

代表取締役 浜本 義典(51年度)

専務取締役 浜本 敏典(〃)

台東区柔道会

会長 丸山彰治
(4期) (31・政経)

副会長 太田正人
副理事長 加瀬次郎

明柔 年二回発行
平成十五年十二月発行
工事場所 東京都印刷所
発行所 小林敏邦
明治大学体育会柔道部明柔会
東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学体育科内
有限公司 渡辺欣勝堂
千代田区神田三崎町2丁目2-1
○○三一三九六一四六三五
一三一三九六一九三二七

(K)

躍進



新日本プロレスリング株
代表取締役 坂口征二
〒106 東京都港区六本木6-4-10
TEL 03-3405-3111

人と自然をつなぐ、
総合エンジニアリング企業。

太平工業は、建設関連事業、
機電エンジニアリング関連事業、製鉄関連事業など、
多岐にわたる技術分野の「複合力」で、
社会貢献をめざす、
新しいカタチの総合エンジニアリング企業です。
これからもチャレンジスピリットで、
みなさまの期待と信頼に応えていきます。



太平工業株式会社

〒104-0033 東京都中央区築地1-2-4 トシリバーサイドビル
TEL (03) 5543-6000 <http://www.taiheikogyo.co.jp>

FASHION SHORTS PILOT HOUSE

株式会社 アリス

代表取締役 佐々木充行
(41年度卒)

東京 営業所 〒103 東京都中央区日本橋久松町13-5
和孝第6ビル5F
TEL (03) 3667-1666番
テレファックス (03) 3667-1668番
本社 〒779-36 德島県美馬郡勝浦町大字勝浦802番
TEL (08835) 2-1138番内
大阪 営業所 〒541 大阪市東区安土町1-22-1
プライムビル3F-302 4F-402
TEL (06) 264-6285番(直通) ㈹

環境機器のパイオニア
空気清浄機をはじめ!!

“勝負強い”

皆様の「身体」と「心」を
サポート致します。



株式会社 ダイレクトジャパン

代表取締役 岩崎孝仁

取締役営業部長 段上道夫 (昭和52年度卒)

本社・工場 〒950-0922 新潟市山二ツ3丁目13番16号
TEL (025) 287-3213(代) FAX (025) 287-3313

東京本社 〒179-0074 東京都練馬区春日3丁目33番12号
ダイレクトジャパンビル
TEL (03) 5971-2088(代) FAX (03) 5971-3088
携帯電話 090-3148-2822

Homepege <http://www.djp.co.jp> E-mail:djp.tokyo@mx7.ttcn.ne.jp

あなたのための
最強になりたい。
新日鐵。

もっとグローバルに。
鉄ビジネスは、生まれ変わる。

日本の鉄鋼業はいま、新しい時代の扉を開いています。技術力で競い合い、総合力を高め、次のグローバルスタンダードを創造する時代です。世の中は、ますます鉄の進化を求めています。新日鐵は、ヨーロッパの鉄鋼メーカー「アルセロール」、韓国の「POSCO」、そして国内の鉄鋼メーカーと提携するなど、より付加価値の高い鉄鋼を提供できるよう、新たなビジネスモデルの構築を進めています。これからは、さらに進化した鉄を、世界中にお届けしていくたいと考えています。お客様それぞれに、魅力ある素材やソリューションを提供しつづける、最強のパートナーを目指して。新日鐵を超えていく新日鐵を、見てください。

お問い合わせは広報センター Tel. 03-3275-5021
<http://www.nsc.co.jp>



CK第一企業中央 株式会社

系列会社
第一企業管財株式会社
箱崎興産株式会社

代表取締役 細川 隆夫
(S 38年度卒)

ビル総合管理

清掃、警備、電気、機械
その他ビル管理一式

〒150-0013 東京都港区浜松町2丁目3番25号
マスキンビル7F
電話 03-3578-8123 (代)

送電線路建設工事設計施工 高田電設株式会社



取締役社長 高田 喜之
(昭和30年度卒)

本社 東京都新宿区大久保1-10-4
電話 03 (3209) 8241 (代表)
支社・出張所 仙台・名古屋・札幌

新和商事株式会社 海老、ふぐ、鮮魚他水産物卸

本社 埼玉県春日部市小渕243
☎ 0489-61-3980
支店 埼玉県越谷市流通団地3-2-1
☎ 0489-85-2084

代表取締役
社長 千葉 進三

58年卒 千葉 宏之
63年卒 本間 一義

海産物問屋

ししゃも製造卸



ちりめん
煮干
塩乾魚 KKヤマザキ
代表取締役 山崎 昌徳 S 24商卒
宇和島市中沢町1丁目2 電話(0895)25-1616㈹

日本石油株式会社
ブリヂストンタイヤ 特約店
ヨコハマタイヤ

大火災海上保険代理店
松岡商事株式会社

代表取締役 松岡 義隆

本社 熊本県八代市高下西町1827
電話 0965-33-2181~2182



武里柔道クラブ

会長 小川 登志雄
(S33年度卒)

埼玉県春日部市大林904-4 TEL. 048-736-6059

JOMO特約店

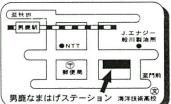
アスファルト・石油類総合販売



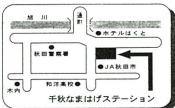
株式会社 男鹿興業社

代表取締役社長 國 安 教 善

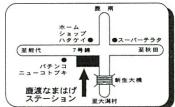
本 社 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り1-18-2 ☎(0185)23-3293(代)
秋田営業所 秋田市秋田市猪山川口境13-7 ☎(018)835-3362(代)



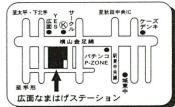
男鹿なまはげステーション
秋田市利根川通鰐川字化世沢178 ☎0185-24-5292



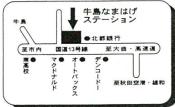
千秋なまはげステーション
秋田市千秋矢置2-43 ☎018-834-1736



鹿渡なまはげステーション
山本郡早川町鹿渡西小瀬川89 ☎0185-87-2316



広面なまはげステーション
秋田市広面字谷地沢22-1 ☎018-832-7633



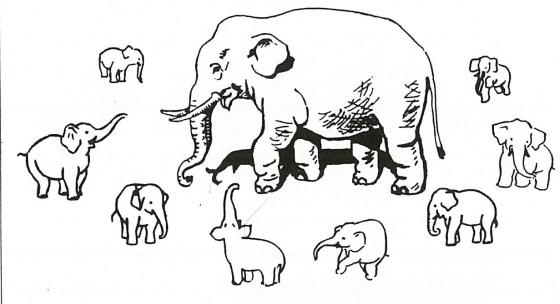
牛島なまはげステーション
秋田市仁井田東町1-31 ☎018-839-2306



リリュー車検
TEAM JOMO

広告

強い絆で! BRINGING UP!



後輩に一層の支援を!!
明柔会費納入のお願い

振り込み先

年会費 ¥20,000

振込銀行 東京三菱銀行八重洲通支店

口座番号 普通預金 1620402

口座名 明柔会 吉井敬吉



**MEIJI UNV. JUDO CLUB
PERIODICALS**